

自分が大好き 人もこのまちも大好き なるこの子



鳴門市



就学前教育・保育 モデルカリキュラム



令和3年3月

鳴門市・鳴門市教育委員会

目次

鳴門市就学前教育・ 保育モデルカリキュラム



うずひめちゃん&うずしおくん
鳴門市のマスコットキャラクター

はじめに ～モデルカリキュラムの作成にあたって～ … 1

1. 基本理念 …… 2

2. めざす子ども像 …… 3

3. 年齢別カリキュラム …… 4

- (1) カリキュラムに関する考え方 …… 4
- (2) 年齢ごとのカリキュラム (0～5歳児) …… 10
 - 0歳児 …… 14
 - 1歳児 …… 16
 - 2歳児 …… 18
 - 3歳児 …… 20
 - 4歳児 …… 22
 - 5歳児 …… 24

4. 小学校への接続 …… 26

- (1) 接続期カリキュラム …… 26
 - 接続期カリキュラム …… 28
- (2) 小学校との連携・交流等 …… 30

<参考>

実践事例 …… 35

鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム研究会委員一覧

【表紙絵】「まほうのえのぐ」(中央保育所)

はじめに

～モデルカリキュラムの作成にあたって～



就学前教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、質の高い教育・保育を保護者や地域のニーズに応じて、総合的に提供することが求められています。また、本市の各就学前教育・保育施設では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、それぞれの施設が創意工夫をこらした独自のカリキュラムや全体的な計画、指導計画を作成し、特色ある教育・保育が進められています。

しかしながら、少子化や核家族化の進行、幼児教育・保育の無償化など、就学前の子どもを巡る環境は大きく変化しており、本市においても、就学前児童数の減少傾向は今後も続くものと予測される一方で、保護者の保育ニーズの多様化や保育士、幼稚園教諭等の慢性的な人材不足など、様々な課題があります。こうした状況を踏まえ、本市の実情に即した就学前教育・保育のあり方について検討をするため、有識者や PTA 関係者、関係団体の代表者の方などで構成された「鳴門市就学前教育・保育のあり方に関する審議会」において、令和元年12月に策定された「鳴門市就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」では、就学前教育・保育施設等の連携と小学校への円滑な接続に向けた取組の1つとして、モデルカリキュラムを作成することが明記されたところです。

「鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム」は、本市が育てたい子どもの姿を共有し、施設間・保育者間の共通理解・連携を図るとともに、幼稚園・保育所・認定こども園といった施設形態によらず、公私立すべての就学前教育・保育施設から小学校へのより円滑な接続の実現を図るための基本となる指針です。本市の就学前教育・保育施設が教育・保育課程や指導計画等を作成する際には、「次代を担う地域の宝である子どもたちを共に育てる」という共通認識のもと、本カリキュラムをご活用いただき、各施設の特性や地域性を踏まえた、より質の高い教育・保育の実践に役立てていただきたいと思います。

最後に、本カリキュラムを作成するにあたり、ご尽力いただきました鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム研究会の委員の皆様及びご協力いただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

令和3年3月

鳴門市長 泉 理彦

1. 基本理念

【基本理念】



ともに学び 育ち合う ^{きょういく} 共育のまち鳴門



本市では、第二期鳴門市教育振興計画（平成28年3月策定）において、家庭や学校、地域が、地域の将来を担う貴重な人材と一緒に育てるという基本的な認識のもとで教育に取り組み、子どもたちが育ち、親が育ち、教師が育ち、教育に関わるすべての人とまちが共に育つ「共育」を推進していくことを目的に「ともに学び 育ち合う ^{きょういく} 共育のまち鳴門」を基本理念としています。

本カリキュラムにおいても、この基本理念を踏襲し、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期である就学前の子どもたちが、小学校への入学に向けて、「育みたい資質・能力」を身につけることのできる環境づくりをめざします。



2. めざす子ども像

第二期鳴門市教育振興計画では、教育は人づくり、人づくりはまちづくりの原点であるという認識のもと、本市の教育がめざす人物像として「豊かな人間性を備え、郷土を愛し、社会に貢献する人」を掲げています。

そこで、人格形成の基礎が培われる重要な時期である乳幼児期の子どもが、安心して健やかに育ち、一人一人が自分を大切に思い、自己発揮しながら、周りの人や地域とかがわることができる子どもであってほしいと願い、本市の就学前教育・保育がめざす子ども像を、「自分が大好き 人もこのまちも大好き なるとの子」とし、心豊かでたくましく生きる力の基礎を育むことができる就学前教育・保育を推進し、本市の教育がめざす人物像の実現につなげていきます。

「豊かな人間性を備え、郷土を愛し、社会に貢献する人」

（第二期鳴門市教育振興計画めざす人物像）

調和のとれた豊かな人間性を備え、郷土を愛し、社会のために働こうとする心を持ち、実行できる人の育成をめざします。

小学校以降の学校教育

小学校への円滑な接続

鳴門市の就学前教育・保育がめざす子ども像

「自分が大好き 人もこのまちも大好き なるとの子」

- 子ども
- 子ども
- 子ども

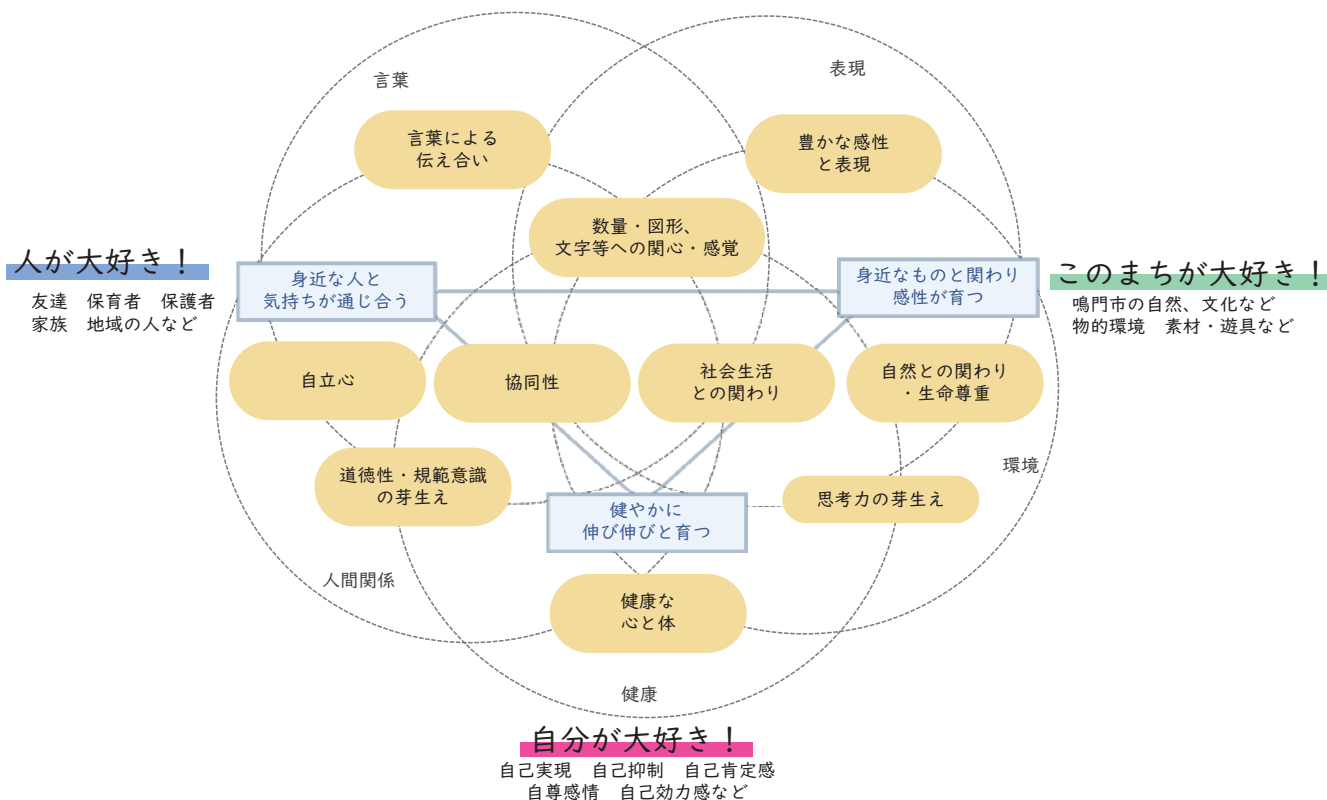
各施設で掲げている
めざす子どもの姿

3. 年齢別カリキュラム



(1) カリキュラムに関する考え方

平成29年改定（改訂）の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記され、各要領・指針の整合性が図られています。下記のイメージ図は、乳幼児期の教育・保育のねらいと内容について発達の側面からまとめた3つの視点と5つの領域、そして幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の相関関係に、本市のめざす子ども像のキーワードである「自分」「人」「このまち」の視点を加えたものです。

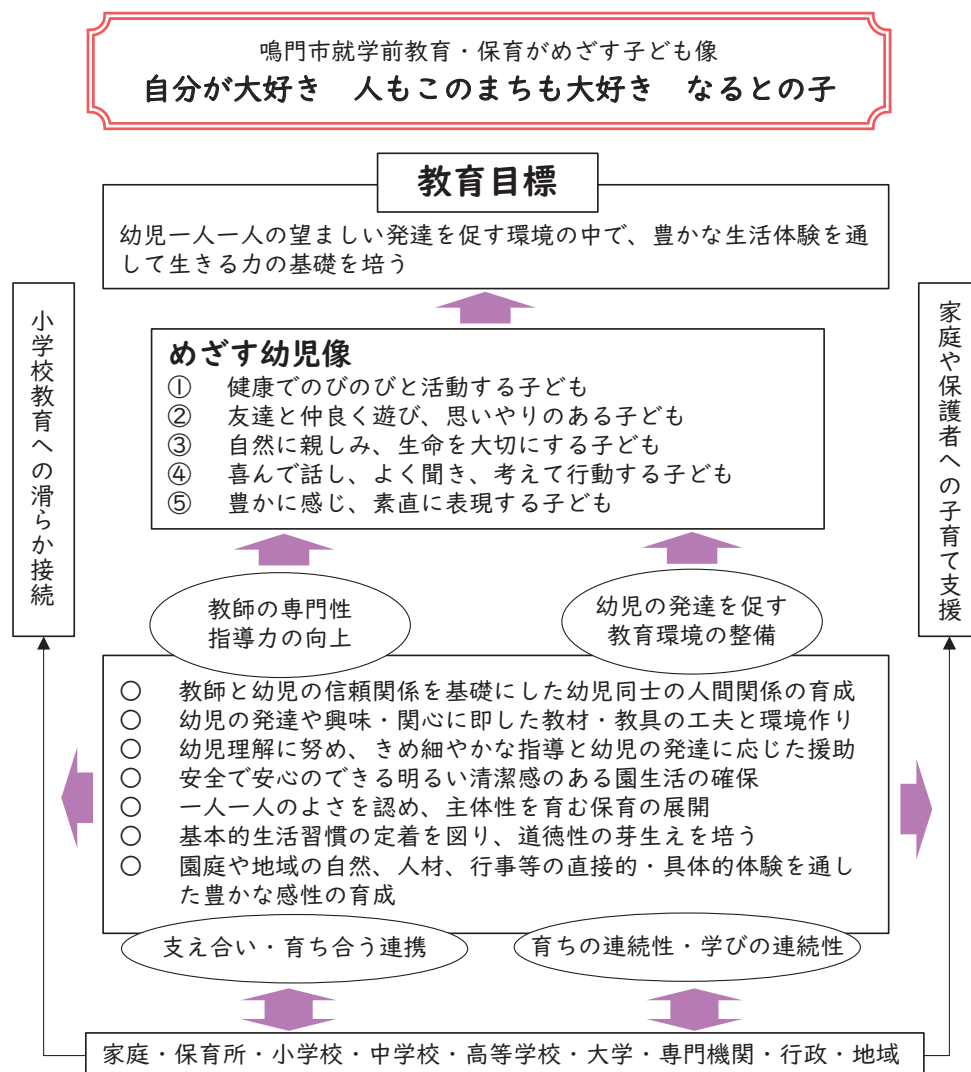


（社会保障審議会児童部会保育専門委員会「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」（2016年）及び無藤隆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿って？」『保育とカリキュラム』（2017年6月号）を参考に作成。）

各施設では、施設経営の理念や方針を家庭や地域と共有するために、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を踏まえて「グランドデザイン」「全体的な計画」を構築していると思いますが、鳴門市就学前教育・保育がめざす子ども像「自分が大好き 人もこのまちも大好き なるとの子」を念頭に、「自分」「人」「このまち」などの視点で再検討してみましょう。たとえば、A保育所の全体的な計画における保育目標は、心身ともにすこやかな子ども＝「自分」、思いやりのある子ども＝「人」、すすんで考え取り組む子ども＝「このまち」と関連付けられます。

「このまち」については、施設内の物的環境、素材・遊具などはもちろん、鳴門市の自然、文化などに関わる行事、異校種間の交流なども、これまでのように積極的に計画してみましょう。

鳴門市の子どもたちの健やかな育ちを保障するために、「グランドデザイン」「全体的な計画」を再考し、「特色ある教育と保育」や職員全員が重点とする進むべき方向を共有し、互いに協働していくことが大切です。



グランドデザインの例（A幼稚園）

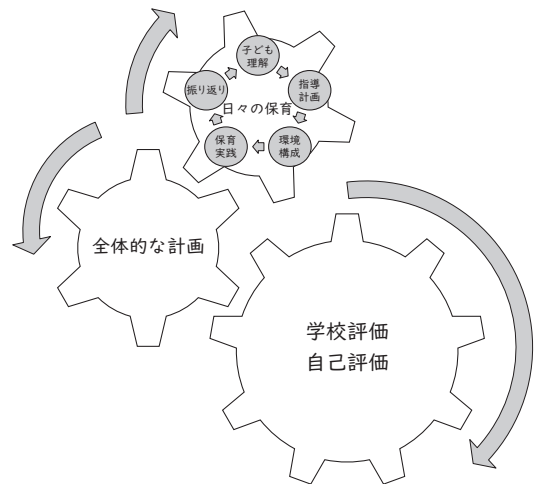
全体的な計画の例（A保育所）

鳴門市就学前教育・保育がめざす子ども像		自分が大好き 人ここのまちも大好き なるとの子		0 歳児		1 歳児		2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児		小学校との連携・接続	
事業の目的	事業の目的	子どもが心身ともに健やかに育成されるよう乳幼児の保育・教育を行うほか、保育所保育指針に掲げる目標が達成されるよう保育を行うことを目的とする。	子ども一人ひとりを大切にしながら、保護者との信頼関係を築き、地域の人々と共に手を取りあい、子育てをする。	子どもの保育目標		行動範囲を広げ探索活動を盛んにする。		象徴機能や想像力を広げながら集団活動に参加する。		身近な仲間や自然等の環境と積極的に関わり、意欲をもって活動する。		信頼感を深め、仲間とともに感情豊かな表現をする。		集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる。			
	保育方針	○子どもが健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動ができるようにし、健全な心身の発達を図る。 ○同年齢の子どものつながりを深めながら、異年齢交流の機会も多くもてるようにする。	○心身ともにすこやかな子ども ○思いやりのある子ども ○すんで考え取り組む子ども	子どもの保育目標													
	健康支援	●健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握 ●年 2 回の嘱託医による健康診断（内科・歯科） ●登所時及び保育中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応 ●年間保健指導計画（年齢別参照） ●年 1 回職員健康診断及び毎月 1 回の検便（調理員・調乳担当者等）	●施設内外の設備、用具等の清潔及び消毒等、安全管理及び自主点検 ●子ども及び職員の清潔保持 ●感染予防対策指針の作成と実施及び保護者との情報共有 ●新型コロナウイルス感染症の感染予防対策	環境・衛生・安全管理		災害への備え		子育て支援		職員の資質向上							
	健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握	●生活リズムの形成を促す ●あたたかなやりとりによる心の安定 ●歩行の確立による行動範囲の拡大 ●周囲の人への興味、関心の広がり ●好奇心を高める ●言葉の獲得 ●話しはじめ ●いろいろな素材を楽しむ ●身体の諸感覚認識による表現	●適度な運動と休息の充足 ●自我の育ちへの受容と共感 ●排泄の確立 ●運動、指先の機能の発達 ●自己主張の表出 ●友達との関わりへの増大 ●自然現象への積極的な関わり ●言葉のやりとりを楽しむ ●言葉の獲得 ●話しはじめ	2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児							
	養護	●生理的欲求の充実を図る ●応答的なふれあい ●情緒的な絆の形成 ●身体機能の発達 ●食事・睡眠等の生活リズム感覚の芽生え ●特定の大人との深い関わりによる愛着心の形成 ●身近なものと関わり、感性が育つ ●喃語の育みと応答による言葉の芽生え ●身体の諸感覚認識による表現	●健康的な生活習慣の形成 ●主体性の育成 ●意欲的な活動 ●基本的な生活習慣の確立 ●道徳性の芽生えと並行遊びの充実 ●身近な環境への積極的な関わり ●言葉の美しさ、楽しさへの気付き ●生活の中での必要な言葉の理解と使用 ●自由な表現と豊かな感性の育ち	3 歳児		4 歳児		5 歳児									
地域の実態に対応した保育事業と行事への参加		●職員会・所内研修会 ●保育指針対応の園外・園内研修 ●所外研修への計画的な参加（乳児保育研修、障がい児保育研修、保育夏季大学、各種別研究委員会等含む）	●小中高の職場体験、社会学習などの受け入れ ●子どものまちフェスティバル ●多世代交流サロン利用の高齢者との交流を計画的に取り入れた保育内容の展開	2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児							
特色ある教育と保育		●職員会・所内研修会 ●保育指針対応の園外・園内研修 ●所外研修への計画的な参加（乳児保育研修、障がい児保育研修、保育夏季大学、各種別研究委員会等含む）	●小中高の職場体験、社会学習などの受け入れ ●子どものまちフェスティバル ●多世代交流サロン利用の高齢者との交流を計画的に取り入れた保育内容の展開	2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児							
研修計画		●職員会・所内研修会 ●保育指針対応の園外・園内研修 ●所外研修への計画的な参加（乳児保育研修、障がい児保育研修、保育夏季大学、各種別研究委員会等含む）	●小中高の職場体験、社会学習などの受け入れ ●子どものまちフェスティバル ●多世代交流サロン利用の高齢者との交流を計画的に取り入れた保育内容の展開	2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児							
自己評価等		●適切な施設運営管理の評価 ●保育所の評価（主体の反省による全体計画等の反映） ●保育士等の評価（自己評価と子どもの評価の確立） ●自己チェックリストの実施と危機管理マニュアルの作成、習得	●適切な施設運営管理の評価 ●保育所の評価（主体の反省による全体計画等の反映） ●保育士等の評価（自己評価と子どもの評価の確立） ●自己チェックリストの実施と危機管理マニュアルの作成、習得	2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児							

※ 新型コロナウイルス感染症が感染拡大した場合、行事の有無、また内容等の変更あり。

教育課程及び指導計画（以下、カリキュラム）についても、子どもの心身の発達、家庭や地域の実態等を踏まえ、次項における「年齢ごとのカリキュラム（0～5歳児）」を参考にしながら、「自分」「人」「このまち」などの視点で見つめ直してみましょう。

しかし、カリキュラムをつくることが最終目的ではなく、実際の保育にどう活用していくかというカリキュラム・マネジメントが大事です。日々の保育の振り返りの積み重ねが全体的な計画の見直しにつながり、その循環によって園全体の保育の質が自ずと向上するようになると考えられるのです。



乳幼児期の教育は環境を通して行うことを基本としています。子どもが「このまち」の環境に主体的に関わり、「人」と交わり、協同しながら、「自分」を発揮していきます。そのようなダイナミックで複雑な関係性の中で保育が展開されますので、子どもの実態や発達に即しているか、実際の保育とかけ離れていないかなど、カリキュラムを柔軟に見直していくことが大切です。

カリキュラム・マネジメントの中核は「子ども理解」です。子どもを理解するために必要なのが日々の保育記録です。記録をとることによって、子ども同士の関わりや保育者との相互作用のなかから、子どもの心の動きを感じ取り、自らの保育を振り返り、それをまた職員同士で共有することができます。保育記録から子ども理解と保育の過程の評価を行い、カリキュラムの改善につなげていきましょう。

保育の振り返りにも「鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム」を活用し、「自分」「人」「このまち」を手掛かりに考察してみてもいかがでしょうか。巻末の実践事例にも示しましたので、ご参照ください。

たとえば、次頁の「ワカメの仕事」の実践事例では、鳴門ワカメの浜茹での作業現場を見学したり体験したりすることで、「みどりになった！変身した」「おいしいにおいじゃ！」など、見たり、聞いたり、匂ったり、全身でワカメを感じながらその性質に気付き **このまち**、「ぼくもしたい」と自分のやりたいことを表したり、「なんか海のにおいがするぞ～」と発見したことを友達に伝えようとしていたりしています **人**。A子は家族の仕事に誇りをもち、「これ、ワカメのにおいなんよ」「ワカメのお仕事するんよ！」と自信をもって保育者に伝えています **自分**。

この実践事例から、子どもたちが五感で感じたり気付いたり（「知識及び技能の基礎」）、試したり伝えたり（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）、自分から意欲的に関わったり自信をもったり（「学びに向かう力、人間性等」）するなど、「育みたい資質・能力」が相互に絡み合いながら発揮されて

いることがわかります。このような子どもたちの心が揺さぶられるような豊かな体験になったのは、保育者が家庭や地域とのつながりを常日頃から大切に、地域の自然や産業に触れる場を意図的につくっているからこそだと考えられます。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点では、「自立心」「社会生活との関わり」「自然との関わり・生命尊重」「言葉による伝え合い」などと関わっていると捉えられます。しかし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5領域における「ねらい」及び「内容」に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている具体的な姿とありますので、到達目標でも個別に取り出されるものでもないことに留意する必要があります。子どもが発達していくプロセスとして見ていこうという姿勢が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の文末の「ようになる」に込められています。

したがって、「何をしたか」ではなく、子どもの姿から「何が育ちつつあるか」を読み取っていくことが大切です。このような「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校との連携・接続のために共有していく必要があります。

「ワカメの仕事」(平成28年3月1日(火))

A子(5歳4ヶ月)の両親は地元でワカメの養殖と加工業をしている。毎年のようにワカメの種付けや刈り取り、浜茹で、塩ワカメの袋詰め作業等を見学させてもらっている。この時期、地元の県道沿いはワカメを茹でる湯気と香に包まれる。子どもたちも、漂ってきた湯気を吸って「いいにおいがする!」と目を輝かせるB男(6歳1ヶ月)。「これ、ワカメのにおいなんよ」とA子が皆に教えている。「ふ〜ん、おいしいにおいじゃ!」とT男(5歳11ヶ月)。「美味しい匂いがするかあ。嬉しいこと言うてくれるなあ。おっちゃんをつくったワカメはおいしんぞお。なあA子」とA子や保育所の子どもたちにA子の父親が話をする。「B、ワカメの色、茶色だろ?こんなかに入れたら、ワカメが変身するんぞ〜。してみるか?」と5歳児のB男に声を掛けてくれる。恥ずかしそうにしながらも、うなずくB男。A子の父親の立っている台に上がり、茶色のワカメを手を持ち、茹で窯の中に恐る恐る入れてみる。「みどりになった!変身した」とB男。まわりで見ていた子どもたちも「ぼくもしたい」とロクに言い始めた。

B男が周りを見渡し、刈り取りを済ませたワカメを積んでいるところへと近づく。そっと手を伸ばし茶色のワカメを引っ張り出して匂いをかぐ。「おい、みんなあ、なんか海のにおいがするぞ〜」ワカメの変身体験を終えた何人かが集まってくる。「うみのにおいじゃ」「わからん」「ワカメのにおいじゃ」など鼻を近づけたり、触った手を匂ったりする子もいた。「A子な、おおいになったら、ワカメのお仕事するんよ!」と瞳を輝かせて保育者に伝える顔は誇らしげで自信を感じさせた。



(中井和恵「小規模保育所における子どもの健やかな育ちをめざして〜さまざまななかかわりをうみだす保育環境の再考〜」『平成28年度保育所研究発表大会実践研究第42集』徳島県保育事業連合会、2017年、pp.68-96より)

参考



【幼稚園教育要領】 第3 教育課程の役割と編成等

1 教育課程の役割

各幼稚園においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。

また、各幼稚園においては、6に示す全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

2 各幼稚園の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、各幼稚園の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

【保育所保育指針】 3 保育の計画及び評価 (1)全体的な計画の作成

ア 保育所は、1の(2)に示した保育の目標を達成するために、各保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、保育の内容が組織的・計画的に構成され、保育所生活の全体を通して、総合的に展開されるよう、全体的な計画を作成しなければならない。

イ 全体的な計画は、子どもや家庭の状況、地域の実態、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しをもって適切に作成されなければならない。

ウ 全体的な計画は、保育所保育の全体像を包括的に示すものとし、これに基づく指導計画、保健計画、食育計画等を通じて、各保育所が創意工夫して保育できるよう、作成されなければならない。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】 2 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」等 1 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の作成等

(1) 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の役割

(2) 各幼保連携型認定こども園の教育及び保育の目標と「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の作成

※それぞれ、幼稚園教育要領の「1 教育課程の役割」「2 各幼稚園の教育目標と教育課程の編成」で示された内容に準じた内容が記載されています。



(2) 年齢ごとのカリキュラム (0～5歳児)

① 年齢別カリキュラムの期の設定

年齢別カリキュラムを考えるにあたって、本市の就学前施設の教育・保育の指導計画等を確認・検討した結果、本市モデルカリキュラムは、0歳児については子どもの発達をいくつかに分けた「期(月齢)」を、1歳児から5歳児については年齢ごとに1年間の課程をいくつかの時期で分けた「期」を設定し、作成することとしました。

年 齢	期	
0歳児	6期	・Ⅰ期(3か月未満)・Ⅱ期(3か月～6か月未満) ・Ⅲ期(6か月～9か月未満)・Ⅳ期(9か月～1歳未満) ・Ⅴ期(1歳～1歳3か月未満)・Ⅵ期(1歳3か月～2歳未満)
1歳児 ～ 5歳児	4期	・Ⅰ期(4月・5月)・Ⅱ期(6月～8月) ・Ⅲ期(9月～12月)・Ⅳ期(1月～3月)

② 年齢別カリキュラムの記述内容のポイント

子どもの姿	各時期における子どもの姿や、発達の主な特徴を示している。
ねらい	各時期において育てほしい子どもの資質・能力を示している。 ※「子ども」が主語となっている。「自分」「人」「このまち」の視点で記述。
内 容	ねらいを達成するために、子どもの発達を踏まえながら、体験してほしい事項を示している。 ※「子ども」が主語となっている。「自分」「人」「このまち」の視点で記述。
環境構成と 援助	子どもが主体的に活動し、発達に必要な体験を得るため、保育者が環境に対して行う働きかけを「環境構成」、子どもに関わって行う働きかけを「援助」として記述している。 ※「保育者」が主語となっている。
家庭・地域 (・小学校) との連携	家庭・地域と各就学前施設の生活がつながり、発達に応じた育ちが促されるよう連携のあり方を示している。 ※5歳児のみ「小学校との連携」についての記載あり。

○1歳児～5歳児の年齢別カリキュラムについては、【内容】の各事項に、鳴門市のめざす子ども像のキーワード「自分」「人」「このまち」の視点を示していますが、前述の5領域等との相関関係のイメージ図にも示されているように、どの領域も相互に関わり合っています。示された視点は、大きく区分するとこの視点の要素が最も強いと考えられるものを表記しています。

○子どもの発達には個人差があります。年齢別カリキュラムの記述内容は、おおよその目安として年齢による発達の特徴を示したものであり、到達目標ではないことに留意し、一人一人の発達や特性に応じた関わりをしていくことが大切です。

③ 年齢別カリキュラムの用語の扱い

モデルカリキュラム内の用語の表記については、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を参考にして、統一しています。

《表記例》

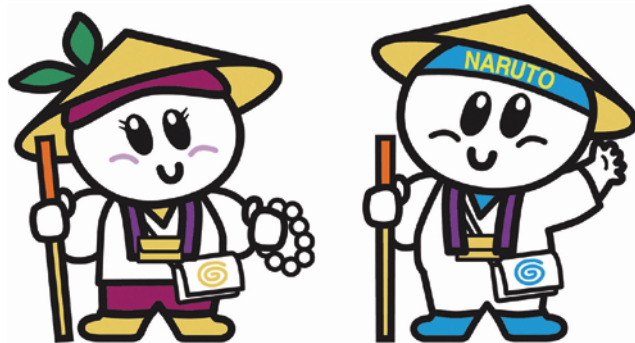
項 目	読み方	表記方法・表記例
合い、合う	あい、あう	触れ合い、伝え合い、喜び合う
関わる	かかわる	関わる、関わり
掛け	かけ、がけ	声掛け、言葉掛け、心掛け
頑張り	がんばり	頑張り、頑張った
きまり	きまり	きまり（名詞）
子ども	こども	子ども、子どもたち
進んで	すすんで	進んで、進み
付く	つく	身に付く、気付く、見付ける
友達	ともだち	※漢字で表記
共に	ともに	保護者と共に、共に過ごす ※「～するとともに」はひらがなで表記
とる・取る	とる	「水分」「休息」「スキンシップ」はひらがなで表記 その他は漢字で表記 (やり取り、取り入れる、取り組む)
一人一人	ひとりひとり	一人一人、一人
もつ・持つ	もつ	親しみ、関心、興味、見通しなどは「もつ」 人が所持している場合は「持つ」 (コップを持って、持っているもの)
よさ	よさ	友達のよさ、気持ちよさ、心地よさ
分かる	わかる	分かる、分かり

《用語解説》

施設	幼稚園・保育所（園）・認定こども園のこと
保育者	幼稚園教諭・保育士・保育教諭等のこと
年長児	5歳児のこと
異年齢児	対象児と異なる年齢の年齢児のこと
年上の子ども	対象児より年上の年齢児のこと
年下の子ども	対象児より年下の年齢児のこと

年齢別カリキュラム

0～5歳児



0 歳 児

期	I 期（3か月未満）	II 期（3か月～6か月未満）	III 期（6か月～9か月未満）
子どもの姿	- 睡眠と目覚めを繰り返すが、次第に目を覚ます時間が長くなる。 - 目の前のものを追視したり、音のする方を見たりする。 - 自分の手を見たり、口に入れたりする。 - 快や不快を感じ分けようになり、空腹になったりおむつが濡れたりすると泣くが、対応してもらおうと気持ちよさそうに泣き止む。	- 眠っている時と目覚めている時がはっきりしてきて、睡眠が安定してくる。 - 首がすわり、腹ばいになると頭を持ち上げるようになる。 - 腹ばいになると手で体を支えるようになったり、寝返りができるようになったりする。 - 近くのものに手を伸ばしてつかもうとする。 - 機嫌のよい時は声を出して笑ったり、見慣れた人に笑いかけたりする。 - 優しく声を掛けてもらったりあやされたりすると、喃語を発したり手足を動かしたりして喜ぶ。	- 離乳食を食べ始め、いろいろな味や舌触りに慣れる。 - 自由に寝返りをし、腹ばいで前後に進むようになる。 - お座りが安定し、座った状態でおもちゃをつかんだり持ち替えたり、両手が見えるようになる。 - 人見知りが始まり、見慣れない人を見ると泣いたり、特定の人に甘え、後追いをしたりする。 - 喃語が盛んになる。
《自分》 《人》 《このまち》	ねらい	- 表情や発声に優しく応答してもらい、保育者との関わりを楽しむ。 - 安全で活動しやすい環境の下、寝返りや腹ばいなど体を動かしたり、動かしてもらったりすることを喜ぶ。	- いろいろな味や形状に慣れ、保育者にスプーンで食べさせてもらうことを喜ぶ。 - 保育者の語り掛けや共感の言葉、読み聞かせや歌を通して発語の意欲が育つ。 - 手遊びや触れ合い遊びを保育者と一緒に楽しむ。
	内容	- 一人一人の生活リズムで生理的欲求を満たしながら、心地よい生活を送る。 - あやされると笑ったり、声を出したり、手足を動かしたりして保育者との関わりに心地よさを感じる。	- 睡眠、排泄、一定間隔の授乳など、一人一人の生活リズムができてくる。 - 身近な人が分かり、見て笑ったり、親しみや安心感をもったりする。 - 立位で抱かれたり、屈伸、腹ばいなど体位を変えてもらったり体を動かしてもらったりすることを喜ぶ。 - 様々な色彩や音の出る玩具、柔らかな素材のものに興味をもち、手を伸ばして握ったりつかんだりする。
環境構成と援助	- 授乳やおむつ交換は優しく声を掛けて触れ合うことで、心地よさを感じるようにする。 - 安全で気持ちよく活動したり眠ったりできるよう、室内の温度・湿度・明るさ・清潔などの環境を整える。 - 睡眠中の子どもの顔色や呼吸をチェックし、変化を見逃さないようにする。 - 目を合わせて表情豊かに声を掛け、時には玩具を用いて、見る・聞くという感覚に働き掛けることを大切にする。 - 特定の保育者が生活の主な部分に関わるようにしてスキンシップを十分にとり、情緒の安定を図る。	- 一人一人の生活リズムを把握し、安心して機嫌よく過ごせるようにする。 - 安全面に注意しながら、寝返りや腹ばいなど体を動かす機会を多くもち、運動機能の発達を促す。 - 子どもからのいろいろなサインを見逃さずに対応し、話し掛けたり触れ合ったりして、スキンシップを十分にとり、愛着関係を深めていく。 - 玩具などは素材・大きさ・形・色など子どもの発達に適したものを選ぶ。 - 玩具は常に安全で清潔であるよう心掛け、口に入れても大丈夫な大きさのものを選ぶ。	- 一人一人の発達状態に合わせて、離乳食の開始や内容、進め方を検討する。また、アレルギーの有無に留意する。 - 活動範囲の広がりに伴い、安全面や衛生面に留意し、活動しやすい環境を整える。 - 人見知りや不安、甘え、怒りなどの気持ちに共感し受け止め、安定した気持ちで過ごせるようにする。 - 音の出るものや硬さや感触の違うものなど、いろいろな玩具を用意したり配置を工夫したりして、活動意欲を引き出せるような環境づくりをする。 - 体調や天候に十分留意しながら戸外に出て、外気に触れる機会をもつ。
家庭・地域との連携	- 子どもの様子を丁寧に伝え合う中で信頼関係を築き、共通の思いで子育てを進められるようにする。 - 子どもの施設と家庭での生活リズムを相互に把握し、安定した生活の流れを作れるように、家庭との連携を密にする。	- 連絡帳や送迎時の対話で、子どもの様子・状況を伝え合い、共通理解を図る。 - 感染症の情報を伝え、感染症の早期発見や拡大防止について理解・対応ができるようにする。	- 離乳食は保護者と連絡を取り合い、一人一人の成長や発達に合わせて、家庭と一緒に進める。 - 興味があること、好きなことを具体的に伝え、保護者と共に成長を喜び合う。

Ⅳ期（9か月～1歳未満）	Ⅴ期（1歳～1歳3か月未満）	Ⅵ期（1歳3か月～2歳未満）
● 食べることに意欲的になり、こぼしながらも手づかみや指でつまみ、自分で食べようとする。 ● はいはいからつかまり立ち、伝い歩きへと、運動機能が発達してくる。 ● 保育者の簡単な言葉掛けが分かるようになり、指差しや喃語で自分の思いを伝えようとする。	● 伝い歩きから一人歩きができるようになるとともに、行動範囲が広くなり、興味の幅も広がる。 ● 友達の側に行ったり、手を伸ばして触ったり、興味をもって関わろうとする。 ● 「マンマ」「プー」など意味のある言葉を言うようになる。 ● 自分の思いが通じないと首を振ったり、手を振り払ったり、泣いたりして、欲求を押し通そうとする。	● こぼしながらも、自分でスプーンやフォークを使って食べようとする。食べ物の好き嫌いがはっきりしてくる。 ● 一人歩きが安定し、小走りをしたり、段差のあるところを歩いたり、段差を飛び降りたりするなど、体を活発に動かす。 ● 簡単な衣服の着脱を自分でしようとしたり、保育者と一緒にしようとしたりする。 ● 周りの友達への関心を示し、友達が持っているものを欲しがったり触ったりする。 ● 一語文が盛んになり、次第に二語文を話すようになる。
● 食べることを楽しみにし、自分から進んで食べようとする。 ● 体を十分に動かして、安全な環境の中で探索活動を楽しむ。 ● 歌や音楽に興味をもち、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。	● こぼしながらもスプーンを使って食べようとしたり、コップを持って飲もうとしたりするなど、自分で食べる意欲をもつ。 ● 指先を使った遊びや全身を動かす遊びを楽しむ。 ● 言葉の意味が分かり始め、身振りや片言で保育者とのやり取りを楽しむ。	● 安心できる保育者との関係の下、着脱や食事を自分でしてみようとする気持ちが芽生える。 ● 保育者が見守る中で、周りの友達に関心をもち、関わって遊ぼうとする。 ● 探索活動を楽しみながら、身の回りの様々なものに触れて好奇心や関心をもつ。
● 食べる、眠る、遊ぶなどの生活リズムが整い、安定して過ごす。 ● 平坦な場所だけでなく、緩やかな斜面や段差でもはいはいで移動する。 ● 興味をもったものに視線を向けたり指差しをしたりし、言葉と一致させようとする。 ● 自分の名前や「バイバイ」「ちょうだい」が分かり、保育者とのやり取りを楽しむ。 ● 保育者の身振りを真似てみたり、声を出して言葉を真似ようとしたりする。 ● 気に入った玩具で遊ぶことや、好きな絵本を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。	● 意欲的に手づかみやスプーンを使って食べようとする。 ● つまむ・たたく・引く・積み上げるなど手や指を使って遊ぶ。 ● 保育者や友達のしていることや持っているものに興味をもち、真似たり触れてみたりする。 ● 絵本を読んでもらうことを楽しみ、知っているものや関心のあるものを指差しや片言で知らせる。 ● 手遊びやわらべうたなどを繰り返し楽しむ。 ● 戸外遊びや散歩を通して、草花や虫など身近な自然を見たり、触れたりしながら興味をもつ。	● トイレに興味をもち、保育者に促されて便器に座ってみる。 ● 保育者の手伝いや見守りがある中で、スプーンやフォークを使って楽しく食べる。 ● 探索を楽しみながら、登る・降りる・くぐる・跳ぶ・押すなど様々な動きをして遊ぶ。 ● 保育者に見守られ、外遊びや一人遊びを十分に楽しむ。 ● 友達のしていることを模倣するなど、興味をもって関わり、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ● なぐり描きでのびのびと自分の思いを表現することを喜ぶ。
● 食べる意欲を大切に、噛むこと、飲み込むことを伝えながら、一人一人に合った援助を行う。 ● 興味や発達に合わせて、子どもの好奇心や探索行動が満たされるように環境を整える。 ● 子どもの視線や表情、声を受け止め、言葉に表して丁寧に伝え、応答する楽しさを感じられるようにする。 ● 子どもがリズムや言葉、身振りを楽しく真似できるように、声の出し方や動き方を考慮する。 ● 見たり、聞いたり、触ったりするなど、五感を使った活動を意図的に取り入れる。	● 「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶を言葉や仕草で繰り返し行い、知らせていく。 ● 歩行がまだ不安定なので、室内外の環境を整え、歩くことの楽しさを感じられるようにする。 ● 手先を使う遊びを楽しめるように、様々な素材や形、大きさの玩具を用意する。 ● 子どもの好きな手遊びや曲を用意し、リズムに合わせて体を揺らしたり手足を動かしたりして遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。 ● 甘えたい気持ちを十分に受け止め、安心して思いを出せるようにする。 ● 身近な自然に対する興味や関心が高まるよう、戸外遊びや散歩に出掛ける時は、十分な時間をとったり、指差したものを一緒に見て発見を共有したりする。	● 一人一人の排泄間隔を把握し、無理なくトイレに誘い、慣れていけるようにする。 ● 自分でやりたい気持ちが十分に満たされるような環境を整えることで、満足感が得られるようにする。 ● いろいろな場所に興味を示し歩こうとするので、転倒などに十分注意する。 ● 友達との関わりにより関心ももてるよう、保育者が仲立ちとなり一緒に遊びながら、子ども同士の関係を見守っていく。 ● 子どもの発見や驚きを見逃がさず受け止め、好奇心や興味を満たすようにする。 ● 自由な発想や表現で自分の思いが出せるように、様々な素材を用意しておく。
● 食事・睡眠・健康状態などについて家庭と連絡を取り合って、生活リズムを整え、安定して過ごせるようにする。 ● 行動範囲が広がる時期なので、安全への配慮について共通理解を図る。	● 自我の芽生えは成長の大切な過程の一つであることを伝え、保護者の悩みをしっかりと受け止めていく。 ● 体調や家庭での生活の様子をよく聞き、無理なく施設生活が送れているか確認する。	● 友達への関心が芽生え、トラブルになりやすい時期であることを知らせ、トラブルになった時は原因や状況を丁寧に伝える。 ● 子どもの「自分でしたい」気持ちを受け止め、援助をしたり言葉掛けをしたりすることで意欲へとつながることを伝える。

1 歳 児

期	Ⅰ期（4月～5月）		Ⅱ期（6月～8月）	
子どもの姿	●新しい環境に戸惑い、不安いっぱい泣いたり落ち着かなかったりする。 ●保育者に少しずつ慣れ、安心して触れ合い遊びをしたり好きな玩具で遊んだりする。		●施設の生活リズムに慣れ、安定した生活を過ごす中で、活動範囲が広がってくる。 ●自然物や身の回りのもの、遊具に興味をもつようになる。	
《自分》 《人》 《このまち》 内容	ねらい	●新しい環境に慣れ、無理なく過ごす。 ●安心できる保育者との触れ合いを喜び、一緒に好きな遊びを楽しむ。 ●戸外で身近な自然に触れ、開放感を味わう。	●保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを少しずつ自分でしてみようとする。 ●保育者との信頼関係を深め、友達との関わりをもつ。 ●水・砂・土などに触れて、いろいろな感触を味わう。	
		●食事・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、生活のリズムが整い、健康に過ごす。自分 ●保育者と触れ合い安心して過ごす中で、身近な人に興味や親しみをもつ。自分 ●気に入った玩具を見付け、一人遊びをしたり保育者と一緒に遊んだりする。人 ●したいことやしてほしいことを表情や身振り、片言で伝えようとする。人 ●保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。まち ●散歩や戸外遊びを通して草花や虫など春の自然に触れ、探索活動を楽しむ。まち	●食事や衣服の着脱、手洗いなどを、保育者に手伝ってもらいながらしてみようとする。自分 ●トイレに興味をもち、便器での排泄に慣れる。自分 ●安心できる保育者との関わりの中で、身近な大人や友達と関わろうとする。人 ●欲求や気持ちを、身振りや簡単な言葉で表し伝える。人 ●保育者と一緒に手遊びをしたり、リズムに合わせて手足や全身を動かしたりすることを楽しむ。まち ●クレヨンや絵の具に触れ、色彩や感触を楽しむ。まち ●水・砂・土などに触れて遊び、気持ちよさや開放感を味わう。まち	
環境構成と援助		●一人一人の発達や生活リズムを把握し、無理なく新しい環境に慣れていけるようにする。 ●一人一人の食量・食べ方・好みを把握し、状況に応じて調整するなど楽しく食べられるよう配慮する。 ●子どもの不安や欲求、甘えを受け止め、スキンシップを十分にとり、信頼関係を築いていく。 ●子どもが興味をもって遊べるよう、発達に合わせた玩具を用意する。 ●指差しや片言などでの意思表示を丁寧に受け止め、発語につながる言葉掛けや関わりを大切にする。 ●安全な環境の中で、春の自然を見たり触れたりできるように、事前に散歩コースを確認しておく。	●暑い時期を健康に過ごせるよう、室内外の温度・湿度に留意し、必要に応じて休息や水分を十分にとる。 ●排泄のタイミングを見て声掛けをし、無理強いせず便器に慣れていけるようにする。 ●「自分で」という気持ちを大切に、できないところは手助けをしながら「できた」という満足感を味わえるようにする。 ●安心して自分の欲求や気持ちを表せるように、一人一人の思いに寄り添い、丁寧に応答し、信頼関係を築いていく。 ●行動範囲が広がり探索活動が活発になるので、施設内外での安全を常に確認し、一人一人の行動に留意して対応する。 ●水遊びが十分に楽しめるよう、体調・水温・消毒等の衛生面に配慮し、安全な環境を整える。	
家庭・地域との連携		●連絡帳や送迎時の対話で毎日の様子を伝え合い、不安や疑問が解消するよう心掛ける。 ●一人一人の健康状態や発達・発達状態を把握するため、家庭との連携を密にする。 ●散歩に出掛けた時は、出会った地域の人に保育者から声を掛け、地域との関わりを広げていく。	●調節しやすい衣服を準備してもらう。 ●感染症の情報を伝え、家庭でも予防に努めてもらうとともに、子どもの健康状態をこまめに連絡し合う。 ●嘔みつきやひっかきは、友達への興味の表れであり成長の過程であることを丁寧に説明し、施設での対応を伝える。	

Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
● 保育者と親しみ、関わりながら遊ぶ中で、友達の存在を意識し始める。 ● 行動が活発になり、戸外で体を動かしたり、散歩を楽しんだりする。	● 簡単な身の回りのことを、自分でしようとする。 ● 保育者が一緒に遊ぶことで、友達と簡単なやり取りをしたり、一緒に遊んだりするようになる。
● 身の回りのことに興味をもち、保育者に手伝ってもらいながら自分でしようとする。 ● 保育者の仲立ちで、友達と関わり一緒にいることを喜ぶ。 ● 戸外遊びや散歩を通して、秋の自然の変化を味わったり、体を十分に動かしたりすることを楽しむ。	● 保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ● 保育者の仲立ちの下、見立て遊びやつもり遊びを友達と一緒に楽しむ。 ● 冬から春への季節を感じながら体を動かして遊ぶ。
● ズボンや靴の着脱に興味をもち、自分で着脱しようとする。 自分 ● 食事の前後や汚れた時は、保育者に促されて自分で顔や手を拭き、きれいになった心地よさを感じる。 自分 ● 身近な友達に興味をもち、触れ合ったり同じことをしてみたり、一緒に過ごすことを楽しむ。 人 ● 保育者や友達に、簡単な言葉や身振りで思いを伝えようとする。 人 ● 保育者と一緒に好きな絵本を見たり、手遊びをしたりして、言葉の繰り返しや模倣を楽しむ。 まち ● 落ち葉や木の実などに触れながら、戸外遊びや散歩を十分に楽しむ。 まち	● 苦手なものでも保育者に励まされたり、友達の姿を見たりして少しずつ食べてみようとする。 自分 ● つまんだり、貼ったり、はめたり、通したり、指先を使って遊ぶ。 自分 ● 生活や遊びの中で、保育者や年上の子どものすることに興味をもったり、真似をしたりして楽しむ。 人 ● 友達と同じ遊びをしたり、保育者の仲立ちで一緒に遊んだりして関わりを楽しむ。 人 ● 生活や遊びの中で、様々な色や形に興味をもつ。 まち ● 保育者や友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 まち ● 冬の自然に触れて、戸外での遊びを楽しむ。 まち
● 咀嚼については個人差を考慮し、一人一人のペースに合わせたり量を加減したりして、自分から食べようとする意欲をもたせる。 ● 生活や遊び全般に「自分で」という気持ちが強くなってくるので、励ましたり見守ったりしながら意欲を高め、できた喜びに共感していく。 ● 自己主張や友達への関心からトラブルになった時は、一人一人の思いを受け止め共感し、安心感をもたせるとともに、友達との関わり方を知らせていく。 ● 子どもの言葉や伝えたい思いをしっかり聞き取り、やり取りの楽しさを感じられるようにする。 ● 戸外遊びや散歩の時は、秋の自然や季節の変化に興味をもつような言葉掛けをする。	● 室内外の温度・湿度・換気に留意し、水分補給や手洗いをこまめに行い、感染症予防に努める。 ● 自分でしようとする気持ちをしっかりと認め、できたことをたくさん褒め、自分でできた喜びを積み重ねて次への意欲や自信につながるようにしていく。 ● 子ども同士が関わり合えるような言葉掛けをし、交流を促す。 ● 子どもの伝えたいことを受け止め、保育者が言葉を補ったり引き出したりして、言葉を使うことを楽しめるようする。 ● 子どもの興味や関心が広がるような絵本や玩具を準備し、手の届くところに配置するなど、環境を整える。 ● 子どもの好きな歌や季節の歌、リズムカルな曲を繰り返しかけ、保育者も一緒に楽しみながら歌ったり体を動かしたりする。
● 薄着の大切さを伝え、気温の変化に合わせて、調節できるものや自分で着脱しやすい衣服を用意してもらう。 ● 子どもたちの自我の育ちや施設・家庭での様子を伝え合いながら、関わり方を一緒に考えていく。 ● 行事等を通して、施設での様子を見てもらい、子どもの成長を共に喜び合う。	● 自分でしようとする姿を伝え、家庭でも意欲の芽生えが育まれるような関わりを共に考える。 ● 一年間の子どもの成長を知らせ、保護者と共に喜び合う。 ● 進級の話を通じて、子どもの育ちについて今後の見通しを伝える。

2 歳 児

期	Ⅰ期（4月～5月）		Ⅱ期（6月～8月）	
子どもの姿	●新しい環境に戸惑いや不安を感じ、泣く姿も見られる。 ●保育者と関わり遊んでいく中で、思いを受け止めてもらい、安心して生活ができるようになる。		●一日の生活の流れが分かるようになり、安心して過ごし、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ●友達と遊ぶ中で、自我のぶつかり合いが増え、トラブルが見られるようになる。	
ねらい	●新しい環境や生活に慣れ、安心して過ごす。 ●保育者と一緒に好きな遊びや遊具を見つけ、楽しんで遊ぶ。 ●戸外活動を通じ、身近な自然や事象に興味や関心をもつ。		●体や身の回りを清潔に保ち、梅雨や暑い時期を健康で快適に過ごす。 ●保育者の仲立ちで、友達と関わりながら遊んだり、簡単な言葉のやり取りを楽しんだりする。 ●水遊びや泥遊びなど夏ならではの遊びを楽しみ、解放感を味わう。	
	《自分》	●保育者に誘われてトイレに行き、排泄しようとする。 ●保育者や友達と喜んで食事をする。 ●新しい環境に慣れ、保育者や友達と安定した関わりをもち、安心して過ごす。 ●名前を呼ばれると返事をしたり、挨拶やしたいこと、してほしいことを言葉で伝えようとする。 ●絵本や紙芝居を保育者に読んでもらったり、一緒に見たりして楽しむ。 ●歌や手遊び、リズム遊びなど、音楽に合わせて体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ●戸外での遊びを楽しみ、身近な春の自然に親しむ。	《人》	●簡単な衣服の着脱を保育者に手伝ってもらいながら、自分でしようとする。 ●保育者に思いを受け止めてもらいながら、友達と関わる中で、相手の気持ちに少しずつ気付く。 ●好きな絵本を繰り返し見たり聞いたりして楽しむ、言葉に興味をもつ。 ●保育者や友達と一緒に歌を歌ったり、音楽やリズムに合わせて体を動かしたりして楽しむ。 ●水・砂・泥などの感触を全身で十分に味わい、夏の遊びを楽しむ。 ●様々な生き物や草花、栽培している夏野菜の生長などに興味をもち、見たり触れたりする。
内容		自分 自分 自分 人 人 まち まち	自分 人 人 まち まち まち	
環境構成と援助		●靴箱やロッカーにマークを付け、自分のものや場所が分かるようにする。 ●安定して食事や排泄、着脱ができるように、一人一人の生活習慣やリズムを踏まえて、個々に合った見守りや対応をする。 ●一人一人の不安や甘え、欲求を受け止め、安心して過ごせるようにする。 ●一人一人が好きな遊びを見つけ満足して遊べるよう、いろいろな玩具やコーナーを用意する。 ●自然に接する機会を多くもち、気付いたことや感じたことを大切に受け止め共感する。		●適切な室温・湿度を保ち、着替えや水分補給などの暑さ対策をこまめに行う。 ●一人一人の健康状態を把握し、活動と休息のバランスに配慮する。 ●自分でやりたい気持ちを大切に受け止め、一人一人に合わせた見守りや手助けをしながら、意欲につなげる。 ●友達との関わりの中でトラブルになった時は、それぞれの思いを受け止め、互いの気持ちを代弁したり見守ったりして、根気よく関わり方を知らせていく。 ●絵本は、子どもの興味を注意深く見つめ、様々な分野のものを用意し、興味をもったものはいつでも見ることができるようにする。 ●水遊びやプール遊びを安全に楽しめるよう、衛生管理や安全面に十分配慮する。
家庭・地域との連携		●連絡帳や送迎時の対話で積極的に子どもの様子を伝え、安心感をもってもらう。 ●新しい環境に対する不安や期待に共感し、施設や家庭での子どもの様子を伝え合い共有しながら、信頼関係を築いていく。		●夏の疾患（食中毒・感染症など）について注意喚起し、対処法や対応を伝え、家庭と連携して予防に努める。 ●友達との関わりの中で起こるトラブルについては、子どもの思いや施設で行っている対応を、保護者に丁寧に知らせていく。

Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
● 走る・跳ぶなどの体を使った遊びを楽しむようになる。 ● ごっこ遊びを楽しんだり、身近な人の真似をしたりする。	● 一人でできることが増えることに喜びを感じ、進級に向けて期待をもつ。 ● 身体の機能が発達し、力強く走ったり、運動遊具を使った遊びを友達と楽しんだりする。
● 手洗いやうがい、簡単な衣服の着脱が少しずつ自分でできるようになる。 ● 保育者や友達と関わりながら、体を使った遊びを楽しむ。 ● 散歩や戸外での遊びを通じて、自然や季節の変化に触れ、興味をもつ。	● 身の回りのことを自分でしようとし、できるようになった喜びを味わう。 ● ごっこ遊びや簡単なルールがある遊びを通して、友達と関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ● 生活や遊びの中で、経験したことや興味のあることを表現し楽しむ。
● 尿意や便意を感じたら保育者に知らせ、トイレで排泄する。 ● 手洗いやうがい、鼻汁を拭くことを自分でしようとする。 ● 保育者や友達と言葉のやり取りをしながら、ごっこ遊びや見立て遊びを楽しむ。 ● 生活や遊びの中で、簡単な数・色・形の違いに気付く。 ● はさみやのりに興味をもち、保育者の援助の下、切ったり貼ったりすることを楽しむ。 ● 友達と一緒に歌を歌ったり、踊ったり、体を動かしたりして表現することを楽しむ。 ● 戸外へ出掛け、葉っぱや木の実を見つけたり集めたりして、秋の自然を楽しむ。	● 生活に必要な習慣や、食事の基本的な習慣・態度が次第に身に付く。 ● 友達や保育者と一緒に、簡単なルールを守りながら集団遊びを楽しむ。 ● 友達や異年齢児と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ● 見たり触れたり感じたりしたことを保育者や友達に言葉を使って伝え、やり取りを楽しむ。 ● 様々な素材や用具を使い、保育者に手伝ってもらいながら、描いたり作ったりして表現することを楽しむ。 ● 冬の自然現象に興味や関心をもち、触れて遊ぶ。
● 季節の変化や体調に合わせて衣服や室温の調節をし、健康で快適に過ごせるようにする。 ● 自分でしようとする意欲を認め、やさしく見守りながら「自分でやり遂げた」という達成感を味わえるようにし、自信をもたせていく。 ● 全身を使った遊びを活発に行えるように、安全に留意しながら、様々な遊具や遊び場を準備する。 ● 保育者が仲立ちをし、順番や交代などの約束やきまりを守ることで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ● ごっこ遊びや見立て遊びがしやすい材料や用具などを十分用意し、子どもの発想や興味を広げる。 ● 秋の自然を身近に感じられるように、自然物を利用した手作りの飾りや玩具を用意する。	● 冬の保健衛生に留意し感染症予防に努めるとともに、手洗いやうがいなどを毎日繰り返すことで習慣付け、健康に過ごせるようにする。 ● 基本的生活習慣の自立に向け、個人差を考慮しながら、できたことを一緒に喜び、自信や意欲をもてるようにする。 ● 友達との関わりを見守りながら、保育者が仲立ちとなり、相手への思いやりの気持ちを育む。 ● 進級に期待と安心感をもてるように、3歳児クラスと連携をとり、交流の機会を作っていく。 ● 切ったり、貼ったり、折ったり、描いたりできる様々な素材や用具を用意し、保育者も一緒に遊び、表現することの楽しさを共有する。 ● 保育者も一緒に霜柱を探したり氷作りをしたりするなど、冬ならではの自然を共に感じられるようにする。
● 体調や気候に合わせて、調節しやすい衣服を用意してもらう。 ● 施設での行事を伝えるとともに参加を呼び掛け、子どもの成長の様子を共有する。 ● 地域の伝統的な祭りや行事に参加して地域の人と交流し、親しみがもてるようにする。	● 感染症の予防や対策の仕方、発生状況を知らせ、手洗いやうがいなどを習慣付けることの大切さを伝える。 ● 一年を振り返っての成長を保護者と共に喜び、進級に向けて安心と期待がもてるようにする。

3 歳 児

期		Ⅰ期（４月～５月）		Ⅱ期（６月～８月）			
子どもの姿		- 進級や入所（園）したことを喜び、新しいことに興味を示す姿がある一方、不安や緊張、戸惑いを感じる姿も見られる。 - 戸外で自然と触れ合いながら、好きな遊びを見付け、楽しむ。		- 生活の流れが分かり、自分のことは自分でしようとする。 - 友達同士の関わりが増えてくる中で、自己主張をしてぶつかり合うこともある。			
《自分》 《人》 《このまち》	ねらい 内容	- 新しい環境に慣れ、生活の流れを知り、安心して過ごす。 - 保育者や友達に親しみを持ち、一緒に好きな遊びを見付ける。 - 春の自然に触れながら、戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。		- 生活や遊びの中には、きまりがあることを知る。 - 保育者の仲立ちの下、友達と一緒に遊びを広げていく楽しさを知る。 - 夏ならではの素材（水・砂・泥等）に触れ、保育者や友達と関わりながら、夏の遊びを十分に楽しむ。			
		新しい環境に慣れ、食事・排泄・手洗い・着脱・持ち物の始末など基本的な生活の仕方を知り、保育者と一緒にしようとする。		自分	保育者の声掛けで休息や水分をとったり、身の回りのことを自分でしようとしたりする。		自分
		自分のクラスの保育者や友達に親しみを持ち、安心して過ごす。		人	友達のすることを見たり、真似たりしながら、一緒に遊ぼうとする。		人
		施設内外の遊具や玩具を安全に使って遊ぶ。		人	自分の経験したことや思いを、保育者や友達に話そうとする。		人
		したいことやしてほしいこと、困ったことなどを言葉で伝えようとする。		人	様々な素材や用具を使って、好きなように表現することを楽しむ。		まち
		知っている歌を歌ったり、手遊びを楽しんだりする。		まち	砂遊び・水遊び・絵の具遊びなど、開放感や変化のある遊びを十分に楽しむ。		まち
		春の草花や虫などに触れたり、種まきや苗植え、水やりなどの世話をしたりして、自然に親しみや興味をもつ。		まち	夏野菜の生長の様子に気付き、観察したり世話をしたりしながら、収穫を楽しみにする。		まち
環境構成と援助		- 生活の仕方を丁寧に伝え、保育者が一緒に行いながら、身に付くようにしていく。 - 一人一人の気持ちを受け止め、安心して楽しく遊べるように丁寧に関わっていく。 - 子どもたちが安全に遊べるように、遊具や玩具の表示の仕方や配置を整え、事前に十分に安全確認をする。 - 危険な行動や遊び方がないか見守り、安全な過ごし方について伝えていく。 - 好きな遊びを見付けられるように、一緒に遊んだり興味をもてるような誘い掛けをしたりする。 - 身近な小動物や草花を見たり触れたりする機会を大切に、子どもの発見や驚きに共感する。		- 適切な水分補給や十分な休息がとれるように環境を整え、一人一人の体調の変化に留意し、健康に過ごせるようにする。 - 自分の気持ちや思いを安心して表すことができるよう、子どもの気持ちを受け止め信頼関係を築いていく。 - 子ども同士の関わりの中で生じる出来事を大切に捉え、保育者がお互いの思いを代弁したり仲立ちしたりして、子ども同士で解決できるように援助していく。 - 子どもたちの興味・関心に合わせた題材を用意し、描いたり作ったりすることを楽しめるようにする。 - 気温に応じて水遊びやプール遊びができるように、場所や遊具などを整え、事故防止・安全管理に努める。			
家庭・地域との連携		- 書類や申し送り、面談などで事前に家庭の状況をよく把握しておく。 - 連絡帳や送迎時の対話で、保護者に施設での子どもの様子を丁寧に伝え、安心感をもってもらうとともに信頼関係を築いていく。 - 散歩などを通して、地域の人に挨拶をしたり言葉を交わしたりすることで、地域とのつながりを深める。		- 健康チェック表に記入をしてもらうなど家庭との連携を密にし、子どもの健康状態を共有する。 - 天候や気温の変化に伴い、着脱しやすい衣服を準備してもらい、体を清潔に保てるよう家庭でも心掛けてもらう。			

3. 年齢別カリキュラム

Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
● 友達との関わりが深まり、一緒に体を動かしたり、表現したりすることの楽しさを感じるようになる。 ● 行事を通して、仲間意識が芽生えたり、異年齢児への興味が出てきたりする。	● 進級や幼稚園・認定こども園に入園することを楽しみにしている。 ● 生活習慣が身に付き、自分のことだけでなく、保育者や友達の手伝いを喜んでする。 ● 異年齢児の遊びに興味をもち、真似たり関わって遊んだりするようになる。
● ダイナミックに体を使って、友達と戸外で遊ぶことを楽しむ。 ● 生活や遊びの中で、ルールやきまりの大切さが分かり守ろうとする。 ● 身近な秋の自然に触れて遊び、色や形の違い、変化に興味をもつ。	● 進級や幼稚園・認定こども園への入園に喜びや期待をもち、意欲的に生活をする。 ● 友達と同じイメージをもって、活動する楽しさを味わう。 ● 冬の季節を感じながら、寒さに負けず体を動かして遊ぶ。
● 走る・跳ぶ・投げるなど、友達と一緒に全身を使っのびのびと遊ぶ。自分 ● 我慢や順番待ち、交代などの簡単なきまりを守って、保育者や友達と一緒に遊ぶ。人 ● 自分の思ったことや感じたことを言葉にし、保育者や友達と気持ちを伝え合う。人 ● 絵本や物語を楽しむ中で、イメージを広げたり、登場人物になりきって遊んだりする。まち ● 自然物や身近な素材で好きなものを作り、それを使って遊ぶことを楽しむ。まち ● 曲やリズムに合わせて、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして、表現する楽しさを味わう。まち	● 年上の子どもの真似をして年下の子どものお世話をしようとするなど、自分の成長を感じ、進級や入園に期待をもつ。自分 ● 生活の流れを理解し、見通しをもって、身の回りのことを自分から進んでしようとする。自分 ● ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを喜んで行い、友達と遊ぶ楽しさを味わう。人 ● 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする。人 ● 保育者と一緒に、いろいろな素材を使って自分なりにイメージしたものを作ったり、それをういて遊んだりする。まち ● 正月・節分・ひな祭りなどの伝統的な行事・文化に触れ、興味をもって楽しむ。まち
● 運動量が増えるので休息を十分にとり、体調不良やケガが起きないように留意する。 ● 様々な運動用具を使って体を動かす遊びが十分楽しめるよう環境を整え、安全に留意する。 ● 意欲をもって取り組んでいることを十分に認め、子どものイメージを保育者も理解し、子どもの思いを実現できるようにする。 ● 季節の変化や自然物が楽しめるような散歩コースを選んだり、集めた落ち葉や木の実などを見たり触れたり遊びに使ったりできる環境づくりをする。 ● イメージを共有できるような遊びを提供し、保育者も中に入って一緒に遊び、楽しさを共有する。	● 冬を元気で健康に過ごせるように、安全・換気・室温などの環境に留意する。 ● 一年間の一人一人の成長を認めながら、進級や入園への期待がもてるようにする。 ● 物事に意欲をもって取り組む姿を十分に認め、できたことを褒め、自信がもてるようにする。 ● 異年齢児との交流の機会をもち、年下の子どもへの思いやりや、年上の子どもへの憧れなどを経験できるようにする。 ● 寒くても戸外で遊ぶ楽しさを感じられるよう、体を十分に動かす遊びを取り入れ、保育者も仲間に入って楽しさを共感し合う。 ● 遊びが発展し、継続していくように、遊具や材料などの種類や配置を考え、それぞれの遊びの環境を整える。 ● 伝統行事に興味をもてるよう、絵本や紙芝居などをういて、分かりやすく伝える。
● 行事の取組の様子やねらいを伝え、協力や理解をしてもらい、子どもの成長を共に喜び合えるようにする。 ● 衣服の調節や手洗い、うがいなど、冬に向けての健康管理の方法や必要性を伝える。	● 感染症が流行しやすい時期なので、家庭でも生活リズムを整え、手洗いやうがいなどの予防を心掛けてもらう。 ● 子どもの成長を保護者と共に振り返り、進級に対する不安が期待に変わるよう、援助していく。

4 歳 児

期		I 期（4月～5月）	II 期（6月～8月）
子どもの姿	新入児	- 初めての集団生活や新しい環境に期待をもって過ごす子ども、不安や緊張を感じて泣く子ども、入所（園）前の友達関係の中で安心して過ごす子どもなど、様々な姿が見られる。 - 生活の流れが分かり、身の回りの始末など自分でできることはしようとする姿が見られる一方、気持ちの向かない子どもがいるなど個人差がある。	- 友達と関わって遊びを楽しむ姿が見られるが、自分の思いを出せるようになってきたことで、思いがうまく伝わらずぶつかり合いが見られることがある。 - 給食などの当番活動に興味をもって、友達と一緒にしようとする姿が見られる。 - 水遊びやプール遊びなど水に触れて遊ぶ機会が増え、ほとんどの子どもが喜んで参加しており、苦手意識をもつ子どもも水に触れる経験をしていくうちに少しずつ慣れてくる。
	進級児	進級したことを喜び、張り切って行動したり、好きな遊びを見付け集中して遊んだりする。一方で、環境の変化に緊張したり、戸惑ったりしている子どももいる。	
《自分》 《人》 《このまち》	ねらい	- 進級や入所（園）したことを喜び、いろいろな活動や遊びに積極的に取り組む。 - 新しい生活に慣れ安心して過ごす中で、自分の好きな遊びを見付けたり、保育者や友達と関わって遊んだりすることを楽しむ。 - 戸外で身近な自然に触れ、不思議さや面白さを感じる。	- 梅雨期や夏の過ごし方を知り、自分の体や健康に関心をもつ。 - 好きな遊びの中で友達と触れ合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 - いろいろな素材を使って、自分がイメージするものを作ることを楽しむ。 - 友達と一緒に夏ならではの遊びを楽しむ。
	内容	- 持ち物や身の回りの始末など生活の仕方を知り、自分で行う。 自分 - 保育者や友達と一緒に食事することを楽しむ。 自分 - 好きな遊びをする中で、保育者や友達と触れ合い、安心して遊ぶ。 自分 - 保育者や友達に親しみをもち、日常生活に必要な挨拶や言葉を交わす。 人 - 友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。 まち - 戸外でのびのびと遊び、体を動かす心地よさや開放感を味わう。 まち - 春の草花を遊びに取り入れたり、虫を見たり触れたりして遊ぶ。 まち	- 汗の始末の仕方、休息や水分のとり方、水遊びの準備や後始末の仕方などを知り、自分で行う。 自分 - 楽しく安全に遊んだり過ごしたりするためのきまりや約束があることを知り、守ろうとする。 人 - 思ったことや感じたことなどを言葉で表し、保育者や友達に伝える。 人 - 様々な素材に触れ、自分なりのイメージを広げながら、描いたり作ったりする。 まち - いろいろな水遊びを通して水に慣れ、砂や水などの感触を楽しみながら、開放感を味わう。 まち - 阿波踊りなど、地域の伝統を取り入れて遊ぶ。 まち
環境構成と援助		- 一人一人の生活習慣の違いを考慮した援助を行い、自分で行う姿勢を育てていく。 - 新しい環境への期待や不安、緊張など、一人一人の思いを温かく受け止め、丁寧に関わり信頼関係を築く。 - 安心して好きな遊びができるように遊具や玩具を用意し、遊びの様子に応じて場の広さや数の調節をして遊びやすい環境を整える。 - なかなか遊びに入れない子どもには、保育者も一緒に遊びに加わったり、遊びに誘ったりして、施設での生活の楽しさを味わえるようにしていく。 - 一緒に花をつんだり虫を観察したりしながら、気付いたことや感じたことを受け止め、共感することで興味が広がるようにしていく。 - 施設内外の危険箇所を把握し、安全点検を行うとともに、遊具や用具などの安全な遊び方や使い方を遊びの中で知らせていく。	- 梅雨の自然を感じたり、自分の体や健康に興味や関心をもてるような環境を用意する。 - 自分の思いがうまく相手に伝わらない時は、保育者が仲立ちとなり、互いの気持ちを聞いたり、伝えたりしながら気持ちの表し方を知らせていく。 - 自分から活動に取り組んだり、友達と共通の遊びを楽しんだりできるように興味や関心に応じて環境を整えるとともに、材料や遊具を豊富に用意しておく。 - 安全面や衛生面などに配慮しながら水遊びを繰り返し行う中で、徐々に水への抵抗感を取り除き、安全に遊ぶためのルールについても意識できるようにしていく。 - この季節にしか経験できない遊びを積極的に取り入れていき、経験の幅を広げていく。
家庭・地域との連携		- 入所（園）式やおたよりなどで施設の方針を伝え、共通理解を図る。 - 連絡帳や送迎時の対話で、施設や家庭での子どもの様子を伝え合うとともに、家庭訪問や参観日など保育者と保護者が親睦を深められるような機会をもち、保護者との信頼関係を築いていく。	- 水遊びやプール遊びなどの安全面・健康面に配慮しながら、家庭と連携し、子どもの健康状態を把握する。 - 行事や懇談などの機会を捉えて、施設での様子を伝え、子どもの育ちについて理解をもってもらうとともに、保護者同士が親睦を深められるようにする。

Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
● 様々な遊びへの興味や関心が広がり、自分なりに考えたり工夫したりして、遊びや生活に取り組むようになる。 ● 戸外で体を動かす楽しさを感じ、活発に遊ぶ様子が見られる。 ● 行事を通して、友達と協力したり助け合ったりすることを経験し、みんなで一緒に活動する楽しさを感じている。 ● 自然物を遊びに取り入れて、美しさを感じたり、触れて遊ぶ面白さを味わったりしている。	● 年長児になることを意識し始め、年長児がしていることを真似しようとしたり、意欲的に生活したりする姿が見られる。 ● 年長児や友達の刺激を受けて、新しいことや難しいことにも挑戦しようとする姿が見られる。 ● 友達とのつながりが深まり、自分の思いを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、イメージを共有して遊ぶようになる。
● 友達と一緒に活動する楽しさや、活動後の満足感・達成感を味わう。 ● 簡単なルールのある遊びに興味をもち、友達や保育者と一緒に体を動かすことを楽しむ。 ● 身近な自然と十分に触れ合う中で、季節の変化に興味をもち、親しみをもって見たり遊んだりすることを楽しむ。	● 進級することに喜びを感じ、自分なりの目的や見通しをもって、遊びや活動に取り組もうとする。 ● 友達と一緒に、共通の目的やイメージをもって活動する喜びを味わう。 ● 身近な自然や伝承遊びに関心をもって楽しむ。
● 戸外で思い切り体を動かす心地よさを感じながら、自分 いろいろな運動遊びに取り組む。 ● いろいろな活動に興味をもち、友達と一緒に遊びを人 考えたり準備をしたりする。 ● ルールのある遊びを通し、友達と一緒に遊ぶことを人 楽しむ。 ● 自分のイメージを分かるように伝えたり、相手の思人 いを受け止めようとしたりする。 ● 友達と一緒に歌を歌ったり、楽器を鳴らしたりして、まち いろいろな音やリズムを楽しむ。 ● 秋の季節の変化を感じながら、身近な自然物を見たり触れたり使って遊んだりする。まち	● 自分の健康に関心をもち、様々な食べ物を進んで食自分 べる。 ● 年長児に憧れをもちながら、一緒に遊んだり、引き自分 継いだ当番活動に進んで取り組んだりする。 ● いろいろな遊びを考えたり、簡単なルールを作った人 りしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ● 正月の遊びやルールのある遊びを通して、文字や数まち 量に興味をもつ。 ● 思いや考え、イメージを伝え合いながら、友達と気まち 持ちを合わせて表現する楽しさを味わう。 ● 冬の自然現象や春の訪れに気付き、感動したり疑問まち をもったりする。
● 活発に遊べる環境づくりをするとともに、遊具や用具の正しい使い方や約束事を伝え、安全に遊びが展開できるようにしていく。 ● 一人一人が考えたり、頑張ったりしていることを認めたり励ましたりして、自信がもてるようにしていく。 ● 自分の思いや考えが友達に伝わったり、友達の思いを受け止めたりする経験を重ねていくことで、友達と一緒に生活する楽しさを感じられるようにする。 ● 季節の歌や子どもの興味に合わせた曲を用意し、一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりしながら表現する楽しさを共有する。 ● 季節や事象の変化に触れる機会をもち、子どもの感動や発見、驚きを十分に受け止め共感する。	● 生活や遊びを通して、年長児になることへの期待がもてるように一人一人に応じた援助をしていく。 ● 自分たちで考えたり試したり、工夫したりして遊びを進められるよう、十分な材料や用具、遊び場の準備など環境を整える。 ● 寒くても戸外で体を動かして遊ぶことを促し、自分なりの目標がもてるような活動や、共通のルールがある遊びを楽しめるように積極的に取り入れていく。 ● 自分の考えを伝えたり、友達の思いを受け入れたりして遊ぶ姿を認め、それぞれのよさに気付くことができるような友達関係を育てていく。 ● 冬の自然現象や季節の変化に気付けるような声掛けをし、身近な自然に対する好奇心や探究心をもてるようにしていく。
● 施設の行事に家族や地域の人に参加してもらい、子どもの頑張っている姿や成長を共に喜び合う。 ● 健康な生活のリズムを身に付けることの大切さを伝え、家庭での生活のリズムや生活習慣の見直しをお願いする。 ● 地域の行事や芋掘りなどを通して、地域の人と交流し親しみをもつ。	● 手洗いやうがい、十分な睡眠など家庭での健康管理をお願いする。 ● 保護者と共に子どもの成長を喜び合ったり、年長児になることへの期待を話し合ったりする場を設け、安心して進級を迎えられるようにする。 ● お世話になった地域の人へ、感謝の気持ちを表せる機会を作る。

5 歳 児

期		Ⅰ期（４月～５月）		Ⅱ期（６月～８月）	
子どもの姿		● 年長児になったことの喜びや期待感が見られ、新しい友達や保育者との出会いに関心をもつ。一方で、生活の雰囲気が変わり、不安になったり緊張したりする子どももいる。 ● 自分の思っていることやしたいことが言えるようになっていくが、意見の食い違いから、遊びが続かなくなったりトラブルになったりすることもある。 ● 年下の子どもの世話や手伝いを、喜んでする姿が見られる。		● 友達から刺激を受けて、自分なりに目標をもち、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られる。 ● 友達関係に少しずつ変化が見られ、関わりを広げて遊ぶとする姿が見られる。 ● 戸外での遊びが活発になり、水遊びや泥遊びなど開放的でダイナミックな遊びを喜び、その中で自分の思いをのびのびと表現する姿が見られる。	
		● 新しい環境に慣れ、友達と好きな遊びを楽しみながら、安定して過ごす。 ● 年長児になった喜びや自覚をもち、友達と一緒に様々な活動に取り組む。 ● 身近な動植物に興味や関心をもち、遊びや生活に取り入れて楽しむ。		● 自分の健康や体に関心をもち、梅雨期や夏の快適な過ごし方を友達と共に考える。 ● 友達とのつながりを深め、友達と一緒に遊びを考えたり進めたりする。 ● 自然や身近な環境に関わり、自分なりの目的をもって、試したり工夫したりする。 ● 梅雨や夏の自然に触れ、関心を深める。	
《自分》 《人》 《このまち》	内容	● 保育者や友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 自分 ● 年長児になった自覚をもち、年下の子ともと一緒に遊んだり世話をしたりする。 人 ● ４歳児で経験した遊びや生活を楽しみながら、新しい遊びにも興味をもって関わろうとする。 人 ● 保育者や友達の話聞き、内容を理解したり、自分の気持ちを伝えようとしたりする。 人 ● 遊びを面白くしたりイメージを実現したりするために、考えたり工夫したりしようとする。 まち ● 植物の栽培や小動物の飼育を通して、その生長（成長）や変化に興味・関心をもつ。 まち		● 自分で進んで汗の始末や衣服の調節、水分補給をし、健康に過ごそうとする。 自分 ● やりたい遊びや運動に繰り返し取り組み、自分の目的を達成できた喜びを感じる。 自分 ● 友達と相談しながら、いろいろな遊びを考えたり生活を進めたりする。 人 ● 水・砂・土などに関わって遊び、感触や開放感を味わいながら、友達と力を合わせて、試したり工夫したりして遊ぶ。 まち ● 雨・雲・空・星など自然の現象や変化に関心をもつ。 まち ● ア波踊りなど、地域の伝統を取り入れて遊んだり、友達と一緒に表現したりする。 まち	
		● 年長児になった喜びや不安を受け止め、一人一人の心の動きを捉えながら、信頼関係を築いていく。 ● 遊具や用具の安全性に配慮した環境を整えとともに、危険箇所や安全な過ごし方について子どもたちと一緒に考え、約束事やルールを自ら守るようにしていく。 ● 年下の子ともと交流する機会を積極的に設け、自分よりも小さな子への接し方を共に考え、年長児としての自覚をもち、思いやりの気持ちを育んでいく。 ● 遊びの中でトラブルになった時は、それぞれの思いを出し合って話し合えるように援助し、解決の仕方を子どもたちと共に考えていく。 ● 子どもたちのやりたい遊びが実現できるように、保育者も子どもと一緒に必要なものを考えたり、材料を探したりする。 ● 保育者も共に生き物や植物の世話をしながら、生命の存在と不思議と一緒に考えたり調べたりする。		● 汗の始末や衣服の調節、適切な休息のとり方を子どもと共に考え、自分から進んで身の回りのことをできるようにする。 ● 一人一人の子どもの健康状態を十分に把握し、プールの使い方やきまりを知らせ、安全に配慮する。 ● プール遊びでは、安全面や個人差を考慮した上で、多様な動きを経験できるように援助する。 ● イメージを広げ、目的を達成するまでに試行錯誤できるような素材や用具を準備し、環境を整えておく。 ● 遊びや生活の中で、友達同士で共感したり伝え合ったりする場を大切に、自分なりの考えや思いを、安心して表現できるようにする。 ● 自然現象に対する疑問や発見をすぐに確かめたり調べたりできるように、図鑑や絵本を用意しておく。	
家庭・地域・小学校との連携		● 一年間の施設の方針や活動内容などを具体的に知らせ、親子が施設での生活に見通しや期待をもって過ごせるようにする。 ● 進級や新しい環境への不安や緊張から疲れが出てくるので、家庭と連携し、健康管理に配慮してもらう。 ● 地域の自然や名所など探検し、地域のよさを知る機会をもつ。 ● 地域の小学校へ散歩に出掛けたり、校庭を利用させてもらったりして、小学校と交流できるきっかけを作る。		● 定期健康診断の結果や日々の遊びの様子から、体づくりの重要性を再認識するよう知らせる。 ● 子どもや親同士の人間関係の悩みや不安などを受け止め、子どものよさを伝えたり、困った時は気軽に相談できるような雰囲気づくりをする。 ● 近くの施設に通う５歳児と、交流の機会をもつ。	

Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
● ルールのある遊びの楽しさが分かり、繰り返し遊びながら、自分たちでルールを考えて遊びを進めていこうとする姿が見られる。 ● 友達との関わりの中でトラブルになっても、自分たちで解決しようとする様子が見られる。 ● 施設内外の自然に触れ、季節の移り変わりを感じたり、遊びの中に取り入れて工夫して遊んだりする姿が見られる。	● 入学への期待が膨らみ、見通しをもって生活や遊びを進めていく。 ● 一人一人が自分なりに目標をもち、自分の力を発揮したり友達とのよさを認めたりしている。 ● 今までの経験や知っていることを生かして遊びを進めていく中で、友達とのつながりが一層深まり、満足するまで遊ぶ姿が見られる。 ● 文字や数字に関心をもち、遊びや生活に取り入れて楽しむ姿が見られる。
● 意見を出し合ったり互いのよさに気付いたりしながら、自分も仲間の一人だという自覚や自信をもち、友達への親しみや信頼感を高める。 ● 共通の目的や課題に向かって取り組む中で、友達と考えを出し合ったり確認し合ったりしながら遊びを進めていく楽しさを味わう。 ● 身近な自然の美しさや不思議さに気付き、自然の移り変わりを感じ取る。	● 小学校生活への期待と自覚をもち、生活を自分たちで進めていこうとする。 ● 友達と共通の目的に向かって取り組む中で、役割を分担したり自信をもって自分の力を発揮したりして、やり遂げた満足感や充実感を味わう。 ● 冬の自然に興味や関心をもち、見たり考えたり試したりする楽しさを味わう。
● いろいろな運動遊びに興味をもち、体を十分に動かして遊ぶ。 ● 遊びの中でルールの大切さに気づき、自分たちで決めたり守ったりして、遊びを進める。 ● 友達の思いや考えを受け入れ、遊びをより楽しくしていこうとする。 ● 遊びや生活の中で、文字・数量・時間・記号などに興味や関心をもち、 ● 絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わったり、友達と共感したりする。 ● 感じたことや想像したことを、言葉・体・音楽・造形など自由な方法で表現する。 ● 身近な秋の自然の美しさや変化に気付き、感動したり、工夫して遊びの中に取り入れたりする。	● 健康な生活に必要な習慣を身に付け、自分でできたことに自信や満足感をもつ。 ● やっていいことや悪いことを自分で考えて行動する。 ● 小学校について友達や保育者と話をしたり、体験入学をしたりして、小学校生活や1年生になることへの関心や期待をもつ。 ● 成長したことを喜ぶとともに、周りの人に感謝の気持ちをもつ。 ● 文字や数字を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく。 ● これまでの経験を生かしながら、感じたことや考えたことを、自由に表現する。 ● 冬の身近な自然現象に興味をもち、考えたり試したりするとともに、冬から春への季節の移りわりを感じる。
● 生活や遊び、就学時健康診断などを通して、病気や事故防止などの意識を深め、自分から気を付けて過ごせるようにしていく。 ● ルールのある運動的な遊びを取り入れ、集団で遊ぶ楽しさが味わえるような援助をしていく。 ● 個々の力をグループの中で発揮できるよう、互いのよさや持ち味を生かせる表現の場を工夫し、頑張る姿を認め合ったり助け合ったりする中で、友達同士のつながりが深まるようにしていく。 ● 遊びの中で数を数えたり、大きさを比べたりする姿を捉えて、楽しみながら文字や数量への興味・関心を広げていけるよう関わる。 ● 施設内外の自然に触れる機会を多くもち、季節を感じたり、感動体験を味わったりできるようにする。また、子どもの発想やイメージをいろいろな表現できるよう、場や時間を十分にとっていく。	● 基本的生活習慣について、一人一人の状況を再確認したり、必要に応じて声掛けをしたりして、自信をもって行うことができるようにしていく。 ● 1年生になることへの期待と意欲をもって生活できるよう、小学校との交流の機会をもち、イメージを膨らませていく。 ● 校了に向けて、クラスでのつながりを意識できる活動を計画したり身の回りの整理をしたりしながら、施設での思い出を振り返り、成長を喜び合うとともに、お世話になった人への感謝の気持ちがもてるようにしていく。 ● 文字や数字、生活に必要なものを使って遊べる環境を準備し、楽しみながら生活や遊びの中に取り入れられるようにする。 ● 霜柱や氷など冬の自然現象に触れ合える機会を逃さず、様々な体験ができるようにしていく。
● 様々な行事を通し、子どもの頑張っている姿を家庭でも十分に認めてもらい、子どもが自信をもって活動していけるようにする。 ● 生活リズムや基本的生活習慣を親子で見直してもらい、健康で安全な生活を意識してもらおう。 ● 小学校へ行って授業の様子を見学したり、施設へ招待したりするなどの交流の機会を作る。	● 感染症予防や早寝・早起きなどの規則正しい生活リズムの大切さを伝え、家庭でも心掛けてもらう。 ● 入学に向けて、保護者の不安を受け止めるとともに、個々の子どもの成長や準備しておくことなどを具体的に知らせ、安心と期待がもてるようにする。 ● お世話になった地域の人に感謝の気持ちを表す機会を作り、地域や周りの人とのつながりを深める。 ● 子どもが入学する小学校側に子どもの様子を詳しく引き継ぎするなど、情報交換や交流を密にする。

4. 小学校への接続

子どもの発達や学びは連続しており、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が図られることが重要となります。平成29年改定（改訂）の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、就学前教育・保育において「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共通して示されています。就学前教育・保育を通して育まれた資質・能力が小学校以降の生活や学習の基盤となることを踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、就学前教育・保育施設と小学校が子どもの姿を共有し、連携を図ることが大切です。

そこで、本モデルカリキュラムでは、年齢別カリキュラムに加え、接続期カリキュラムを作成するとともに、小学校との連携・交流の取組についてまとめました。



（１）接続期カリキュラム

本市では、5歳児の1月～3月（アプローチ期）と小学1年生の4月・5月（スタート期）の5か月間を「接続期」とし、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために大切にしたいポイントを、接続期カリキュラムとしてまとめました。



育みたい 資質・能力

「知識及び技能の基礎」

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

「思考力、判断力、表現力等の基礎」

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

「学びに向かう力、人間性等」

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

遊びを通して一体的に育む

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

○健康な心と体

自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

○自立心

自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。

○協同性

友達と一緒に目的の実現に向けて考えたり協力したりするようになる。

○道徳性・規範意識の芽生え

よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりを守ったりするようになる。

○社会生活との関わり

家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになる。遊びや生活に必要な情報を役立てて活動したり、公共施設を利用して、社会とのつながりを意識するようになる。

○思考力の芽生え

身近な事象から物の性質などを感じ取ったり、予想したりして、多様な関わりを楽しむようになる。

○自然との関わり・生命尊重

自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。生命の不思議さなどに気付き、動植物を大切にようになる。

○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しんだりして、興味や関心、感覚をもつようになる。

○言葉による伝え合い

経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむようになる。

○豊かな感性と表現

心動かす出来事に触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※これらは到達目標ではなく、一人一人の発達に応じて育っていきます。また、それぞれの姿の一部のみを記載しています。

接続期カリキュラム

就学前教育・保育 《学びの芽生え》

子どもの育ちと学びを

5 歳児 1 月～3 月（アプローチ期）

ねらい

- 小学校生活への期待と自覚をもち、生活を自分たちで進めていこうとする。
- 友達と共通の目的に向かって取り組む中で、役割を分担したり自信をもって自分の力を発揮したりして、やり遂げた満足感や充実感を味わう。
- 冬の自然に興味や関心をもち、見たり考えたり試したりする楽しさを味わう。

子どもに体験してほしい内容

- 健康な生活に必要な習慣を身に付け、自分でできたことに自信や満足感をもつ。

自分

- やっていいことや悪いことを自分で考えて行動する。

自分

- 小学校について友達や保育者と話をしたり、体験入学をしたりして、小学校生活や一年生になることへの関心や期待をもつ。

人

- 成長したことを喜びとともに、周りの人に感謝の気持ちをもつ。

人

- 文字や数字を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく。

まち

- これまでの経験を生かしながらか、感じたことや考えたことを、自由に表現する。

まち

- 冬の身近な自然現象に興味をもち、考えたり試したりするとともに、冬から春への季節の移り変わりを感じる。

まち

○こま回しや縄跳び、マラソンなど、自分なりに目標や課題をもってねばり強く挑戦する。また、友達と教え合ったり競い合ったりしながら、遊びや運動をする。

○小学校への期待や不安を先生や友達と話し合ったり、小学生と一緒に小学校を探検するなどの学習活動に参加して、教室や学校施設での生活に具体的なイメージをもったり、学習への期待を膨らませたりする。

○修了に向けて、施設での作品を整理したり、係や当番活動を引き継いだりして、自分や友達の成長を感じる。また、年下の友達や家族、地域の人へのプレゼントを作ったり、手紙を自分なりに書いたりして、感謝の気持ちをもつ。

○共通の目的に向かって、友達とお互いの思いや考えを出し合いながら、テーマやストーリー、登場人物を自分たちで考えたり、役割分担をしたりして、紙芝居やペープサート、劇などを作って表現する。

○かるたやトランプ、すごろくなどで遊ぶ中で、遊びのルールなどを友達に伝えたり、相手の考えを最後まで聞いたりする。また、集合数や順序数などの特徴にも気付く。

○友達と一緒に、音楽のリズムやテンポに合わせて動いたり、歌ったり、様々な楽器に触れて音色の美しさや音の違いに気付いたりする。

○オペレッタや劇遊びをする中で、自分たちがイメージしたストーリーや登場人物に必要な衣装や小道具、背景などを作る。また、これまでの遊びの中で経験したことを思い出しながらか、様々な素材や用具の特性を生かしたり、使い方を工夫したりして立体的・平面的なものを作る。

○わんわん凧や遊山箱など、地域の文化に興味をもち、見たり遊びに取り入れたりする。

○霜や氷に興味をもって触れたり、実験してその性質に興味をもったりする。凧や風輪、風車などで遊ぶ中で、北風の力や働きなどに気付く。また、3月には木の芽やつぼみを観察したり、自然の変化を感じたりする。

幼児期の終わり
までに
育ってほしい姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の
芽生え

自然との関わり
・生命尊重

数量・図形、文字
等への関心、感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と
表現

交流活動
の例

（子ども同士の交流）

○行事交流（運動会・発表会等） ○作品交流（絵画・制作等） ○合同避難訓練、防災訓練 ○学校見学、体験入学
○地域での幼保認可小の連携活動（鳴門金時、わかめなどの農林漁業体験・なると第九など地域文化との触れ合い）

小 学 1 年 生 4 月 ・ 5 月 (ス タ ー ト 期)

ねらい

- 学校生活に必要なきまりや約束を覚え、小学校での新しい生活を安心して過ごす。
- 先生や友達、上級生の顔や名前を覚えて、親しみをもって自分から関わろうとする。
- 学校生活や学習の基本的な習慣が身に付き、意欲的に学習や活動、遊びに取り組むことができる。

入 学 当 初 に 大 切 に し た い 指 導 の ポ イ ン ト

1. 生活科を中心とした総合的・関連的な指導

〈例〉生活科「がっこうたんけん」を中心とした指導のねらい

- 生活科の活動に各教科の学習内容を組み込むことで、楽しみながら各教科の学習内容に取り組むことができるようにする。
- 新しい環境である小学校のことを様々な視点から知り、安心して学校生活を送ることができるようにする。
- ゆったりとした時間の中で進めていくことで、児童の興味関心や活動が広がり、各教科へつながっていくようにする。

教科等	具 体 的 な 活 動 例
国 語	・「どうぞよろしく」で名刺を作り、2年生や先生に自己紹介をする。 ・「こえのおおきさどうするの」と関連させ、挨拶や質問の仕方を学習する。 ・「ことばたんけん」では、場所や物、先生の名前などを書いたり読んだりしながら「ことば」を増やす。
算 数	・「かずたんけん」で水道やくつばこなど、見付けたものの数を数えたり、10までの数のものを探したりする。 ・「かたちたんけん」で見付けたものの形に着目したり、○・△・□や、はこの形・つつの形・ボールの形を探したりする。
音 楽	・音楽室で楽器に触れたり、歌を歌ったりする。
図画工作	・見付けたものを絵に描く。 ・積んだり並べたりして、造形活動につなぐ。
体 育	・遊具の名前や種類、使い方を学習する。
道 徳	・「がっこうにはね」と関連させ、様々なものや道具があることを知るとともに、支えてくれている人がいることを知る。
学級活動	・危険な箇所や学校生活のルールを知る。

2. 弾力的な時間割の設定

① 幼児期の生活リズムや1日の過ごし方への配慮

施設での活動や生活の流れから授業へとつながるように、連続した時間設定をする。

〈例〉ランドセルの片付け → 自分で読書 → 「さんぽ」を歩きながら歌う → 朝の挨拶 → 健康観察 → 読み聞かせ → 国語の学習へ

② 時間配分の工夫

- ・1日を短い時間（10分～30分）の活動で構成する。
- ・45分の授業を短い時間の活動で区切る。
- ・活動に合わせて長い時間（60分や90分）を確保する。

3. 安心して学べる学習環境の工夫

① 施設での遊びを取り入れた活動

- ・施設で人気のあった本を児童が読めるように学級文庫に加えたり、読み聞かせに取り入れたりする。
- ・朝や音楽の授業の始めに、施設で親しんでいた歌や手遊び、リズム遊びを取り入れる。等

② 視覚的な支援

短い言葉・絵・写真・色・ICTを用いた視覚的な表示をすることで、児童が自分で確認できるようにする。

- ・給食時の手順 ・朝の支度 ・1日の活動の流れ
- ・ロッカーや机の中の整理法 ・下校コース別の色分け
- ・実物投影機とプロジェクターで教科書を表示 等

③ 場の設定

- ・課題が早く終わった児童が自由に取り組めるプリント類を置いた「チャレンジコーナー」を作る。
- ・読み聞かせ時に小マットを敷いて座るなど、場の設定を工夫する。等

④ 異学年と関わる活動の設定

- ・上級生の教室を訪ねたり、遊び会を開いたりする。
- ・給食の準備や掃除などを上級生に教えてもらい、一緒に行う。等

【参考資料】鳴門市小教研生活科部会「幼児期の教育と小学校教育の円滑な連携を図るために」（令和元年10月）

(保育者・教職員同士の交流)

○年間行事計画や施設だより、学校だよりの交換 ○合同研修 ○保育参観、授業参観 ○情報交換（特に入学前後）



(2) 小学校との連携・交流等

幼児教育から小学校教育への円滑な接続のためには、まず、子どもの育ちと学びを知り、保育者・教職員が互いにどのようなねらいで、どのようなことをしているのか、それぞれの保育・教育内容について知り、理解を深めることが大切です。

そこで、就学前教育・保育施設と小学校とのつながりをより一層深め、保育者・教職員の相互理解が図られるよう、連携体制を整え、継続的に連携・交流を行っていく必要があります。

① 連携体制の構築

本市では、これまで市内全小学校に公立幼稚園が併設され、幼小の様々な連携・交流活動を通じて、園児と児童だけでなく教職員間でも情報交換の機会を多くもつことで、校種によるお互いの違いを理解し、両者の立場の違いによって生じがちな課題やトラブルの解消に努めるなど、長年緊密な連携を図ってきました。

また、平成29年度には「鳴門市幼稚園・こども園連絡協議会」を設置し、定期的に合同研修を実施するなど、公私立幼稚園・認定こども園がそれぞれの園種の壁を越えて連携を図っています。

このたび、令和2年8月11日に策定された「鳴門市公立幼稚園のあり方について」において、公立幼稚園再編を契機として、市内すべての就学前教育・保育施設と小学校とのさらなる連携促進を図るために示された、次の取組を推進することで、連携体制の整備・充実をめざします。

◆「連携校」の設定と連携・交流活動の推進

本市のすべての就学前教育・保育施設を対象に、特定の小学校を「連携校」として指定し、「連携小学校区連絡協議会（仮称）」（以下、「連絡協議会」という。）を設置します。連絡協議会は、連携校と当該連携校の校区内に位置する幼稚園・保育所（園）・認定こども園を、基本のグループとして考えています。（別表「連携施設一覧」参照）

ただし、これまでの連携・交流の状況や地域の実情等により、一つの就学前教育・保育施設が、複数の小学校を連携校として設定し、連携・交流することもあるものと考えています。

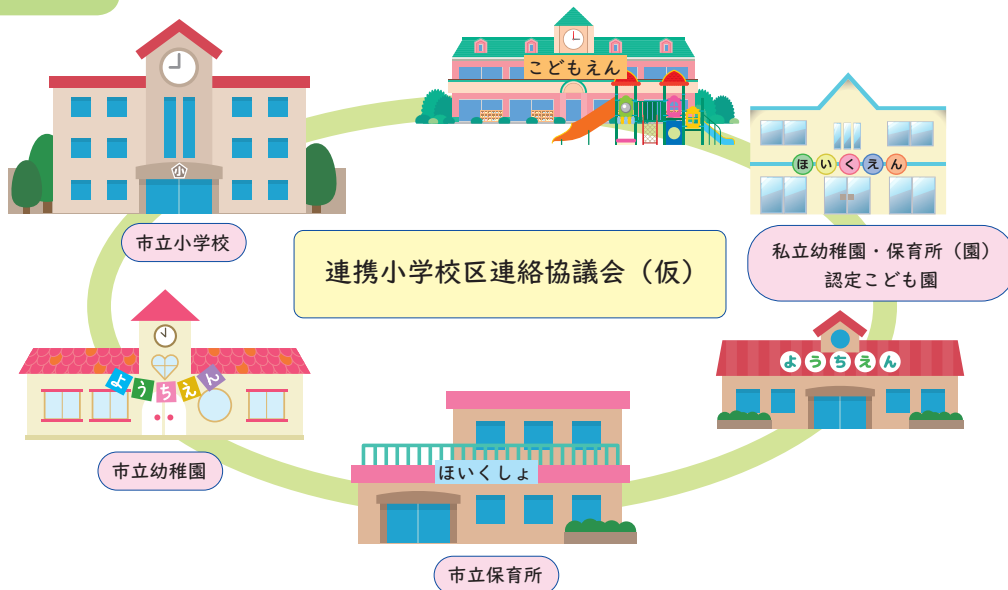
連絡協議会は、年3回程度（春・夏・冬季休業期間中等）の開催を予定しており、

- ・ 行事予定の共有、すり合わせ等
- ・ 交流活動の活発化
- ・ 校区内の子どもたちの課題や対応方法等の共有
- ・ 保育・授業参観や合同の保育・授業の計画
- ・ 保育・教育の実践記録等に基づいた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有
- ・ 接続期カリキュラムを含む全体的な計画や教育課程の見直し・改善等

など、就学前教育・保育施設と小学校間の日常的な連携関係の構築を図る場となります。

各就学前教育・保育施設と小学校は、連携の窓口となる担当者を置き、他の施設等との連絡調整や連絡協議会への参加など、連携・交流活動を推進してください。

《連携校》



▶連携校を中心とした連携体制のイメージ

◆「コミュニティ・スクール」への参画

本市では、令和3年度より2中学校、5小学校において「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」（※1）を先行導入し、令和4年度からは市内全小中学校に設置する予定としております。（幼稚園については、令和5年度以降の予定。）

公立幼稚園をはじめとする小学校の校区内に位置する就学前教育・保育施設の代表者が、小学校に設置される学校運営協議会の委員として、学校運営へ参画することで、小学校とのつながりが日常的・継続的なものとなり、連携をより深める有効な手立ての一つとなると考えます。

（※1）「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」とは

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」第47条の5に基づいて教育委員会が学校に設置する学校運営協議会には、主な役割として、

- ①校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
 - ②学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べるができる
 - ③教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる
- の3つがある。

② 連携・交流例

◆子ども同士の交流例①

「わくわくおもちゃランド」へご招待

大津西幼稚園・大津西小学校

2年生が幼稚園児と1年生を招いて、手作りの玩具やゲームと一緒に遊ぶ交流活動です。

園児は、招待状のカードを見ながら「次はここに行こう!」と、魚釣りやユーフォーなどの様々な遊びのコーナーに楽しんで参加することができました。困ったことがあれば、1・2年生が「大丈夫?」と心配して声を掛けてくれたり「こうするんだよ」と優しく教えてくれたりしました。また、「やったね!」「上手にできてるよ」と共に喜んでくれたり褒めてくれたりしたことで、安心して遊ぶことができ、小学校がより身近な存在になったようです。

2年生は、それまでは自分のために玩具を作っていましたが、園児や1年生に遊んでもらうための玩具作りに、表情がいきいきとし始めた姿が見られ、交流後の感想には、相手に喜んでもらえたことを嬉しく思う気持ちがたくさん書かれていました。

交流のねらい

(幼児)

- ・自分が大切にされているという気持ちをもつ。 **自分**
- ・小学生に親しみや憧れの気持ちをもち、自分も周りの人を思いやろうという気持ちをもつ。 **人**
- ・交流活動に参加し、小学生と一緒に遊びを楽しむ。 **このまち**

(小学生)

- ・幼児と関わり、相手を思いやる気持ちを育む。 **人**
- ・幼児が楽しめるように、工夫して玩具を作ったり遊びを考えたりする。 **このまち**
- ・自分のよさや成長を実感し、自信をもつ。 **自分**

◎その他の交流例

【絵本の読み聞かせ】

5年生が、幼稚園・保育所・認定こども園で、幼児に自分たちが選んだ絵本の読み聞かせをする。

【プール活動】

幼児が小学校のプールで、6年生と一緒に水遊びを楽しむ。6年生のサポートを受けながら、広いプールでの活動にも挑戦してみる。

【1年生体験入学】

年長児が、1年生の教室で勉強を一緒にしたり、校内を案内してもらったりして、小学校生活を体験する。

◆子ども同士の交流例②

合同避難訓練の実施

成稔幼稚園・幼保連携型認定こども園 IZUMI
鳴門西小学校

地震発生後の津波到来を想定した避難訓練を、成稔幼稚園・幼保連携型認定こども園 IZUMI・鳴門西小学校が合同で行っています。

園児・小学生全員が、避難場所である鳴門西小学校の運動場まで避難した後、校舎3階に避難しました。小学生に手をつないでもらったり、隣に座ってもらったりしたので、不安そうにしていた園児も安心して避難訓練に取り組むことができたようです。

また、地域の自主防災会の方々にも避難の安全確保にご協力いただきました。

交流のねらい

(幼児)

- ・ 小学校の施設に慣れ、親しみをもつ。 **このまち**

(幼児・小学生)

- ・ 自分が周りの人や地域の人に見守られていると感じ、自分も地域の一人だという気持ちをもつ。 **自分** **人** **このまち**

◎その他の交流例

【オリエンテーリング】

チェックポイントに、小学校の運動場や公民館など地域の施設を設定し、地域を歩く。それぞれのポイントで歌を歌ったり、ゲームや縄跳びで遊んだりして、地域に親しみをもつ。

◆保育者・教職員同士の連携・交流例

【就学前教育・保育施設と小学校の情報共有】

- ・ 各就学前教育・保育施設と小学校に、連携の窓口となる担当者を置く。
- ・ 施設だより、学校だよりを交換し、互いの保育・教育方針を知る。
- ・ 年間行事計画を交換し、行事予定の共有やすり合わせをし、交流計画を立てる。

【子どもに関する情報共有】

- ・ 小学校入学前に、子どもの様子や発達の状況などを就学する小学校にしっかりと伝える。
- ・ 教職員が保育参観をし、就学前教育・保育施設での子どもの姿や生活の様子を知る。
- ・ 小学校入学後に、保育者が授業参観をし、1年生の学習や生活の様子を見たり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しながら保育者・教職員それぞれの立場で子どもの様子を話し合ったりして、情報交換をする。

【保育者・教職員の交流・研修会】

- ・ 保育者・教職員が互いの行事や研修会に参加する。
- ・ 就学前教育・保育施設と小学校の合同研修会を実施し、相互理解を図る。
- ・ 「鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム」を基に、カリキュラム・マネジメントを行う。

別表

連携施設一覧

	連携小学校	就学前施設		
		幼稚園（※１）	認定こども園 私立幼稚園	保育所
第一 中学校区	撫養小学校	撫養幼稚園		うずしお保育園 正興寺保育園 中央保育所（※３） 新公立保育所（※３）
	黒崎小学校		聖母幼稚園	
	桑島小学校	桑島幼稚園		桑島保育所
	第一小学校	第一幼稚園	認定こども園さら	矢倉保育園
	大津西小学校			すみれ保育園
第二 中学校区	林崎小学校	精華幼稚園		岡崎保育所 つくし保育所 林崎保育所（※３）
	里浦小学校			里浦ちどり保育所
鳴門 中学校区	鳴門東小学校	成稔幼稚園（※２）		
	鳴門西小学校		幼保連携型認定こども園 IZUMI	
瀬戸中学校区	明神小学校	明神幼稚園		明神善隣館保育所
大麻 中学校区	堀江北小学校	堀江北幼稚園	認定こども園 すくすく	
	堀江南小学校			
	板東小学校	板東幼稚園		板東みやま保育園 板東ゆたか保育園

※１・・・公立幼稚園再編後の配置

※２・・・令和４年度より公私連携施設として認定こども園化する施設

※３・・・中央保育所と林崎保育所は、新公立保育所（令和４年秋頃完成予定）に集約

〈参考〉

実践事例

各施設から提出いただいたエピソードに、「鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム」のキーワードである「自分」「人」「このまち」の視点から考察を加えています。

日々の教育・保育の実践や振り返りの参考にしてください。

事例Ⅰ	中央保育所〔0・1歳児〕	36
事例Ⅱ	林崎保育所〔0・1歳児〕	37
事例Ⅲ	矢倉保育園〔2歳児〕	38
事例Ⅳ	うずしお保育園〔3歳児〕	39
事例Ⅴ	認定こども園すくすく〔3歳児〕	41
事例Ⅵ	鳴門聖母幼稚園〔3歳児～〕	42
事例Ⅶ	板東幼稚園〔4・5歳児〕	44
事例Ⅷ	大津西幼稚園〔5歳児〕	46
事例Ⅸ	幼保連携型認定こども園IZUMI〔5歳児〕	48
事例Ⅹ	みどり保育所〔5歳児〕	50



実践事例

事例Ⅰ 中央保育所〔0・1歳児〕

「ゆっくりでいいけんな、一緒にいこよ。」【斎田地区合同防災訓練への参加】（5月）

ガチャガチャ、ガチャガチャ「訓練です。訓練です。大地震が来ます。安全確保！安全確保！」の非常ベルや放送の声に驚き、こあら組（0・1歳児）の子どもたちは、泣きわめきながらも保育士と一緒に押し入れの下にダンゴムシポーズで避難。落ち着かせようと「大丈夫。（先生は）おるよ。」と抱いたりおんぶしたり、声を掛けながら防災頭巾をかぶせていく。



揺れが収まり、保育所前の撫養小学校屋上まで二次避難するようになると、斎田地区自主防災会の方々が、フェンスの向こうから「いけるで？」「どれ、おうたげんで。」と援助の声を掛けてくれる。保育士が「ありがとうございます。この子をお願いします。」とN子（0歳児）を女性の背中にのせると、N子は泣きながらもしがみつく。「おばちゃんが背負ったげるけんな。先生もおるよ。」という言葉に少し泣き止み、傍にいる保育士の顔を見る。保育士が、「大丈夫、大丈夫、おばちゃんに連れて行ってもらおうな。」とN子の背中をトントンするとN子も少し安心したように静かに体を預ける姿があった。



また、自主防災会の女性と手をつないで階段をあがるR子（1歳児）は、「こわい〜。」と足を止めるが、「ゆっくりでいいけんな、一緒に



いこよ。」と声を掛けてもらおうと「うん。」とうなずき、屋上まで自分であがって行けた。

地域の方々は、散歩で出会うと挨拶をしてくれたり、声を掛けてくれたりするだけでなく「いつでも走ってくるけんな。」と言ってくださっている。保育所は、たくさんの方々に協力していただきながら地区合同防災訓練に参加している。

地区合同防災訓練に参加し **このまち**、保育者や地域の人たちに親しみを持ち **人**、安心して過ごしたり、自分から歩こうとしたりしている **自分**。地域の方々との信頼関係が日々の保育の中で構築されていることがうかがえる〈1歳児Ⅰ期：家庭と地域との連携「散歩に出掛けたときは、出会った地域の人に保育者から声を掛け、地域との関わりを広げていく」など〉。地域の人たちに温かく見守られながら、子どもたちが地域と共に育つという風土が大切である。

事例Ⅱ 林崎保育所〔0・1歳児〕

「おばあちゃん、タッチ～」【地域のおばあちゃんたちとの交流】（8月）

林崎保育所では、保育所のリズム室を「鳴門市介護予防・多世代交流サロン」として活用しており、高齢者の方と保育所の子どもたちの交流が長年続いている。

夏、保育所の子どもたちとサロンの参加者が阿波踊りを一緒に踊る機会があった。0歳児Y男は手作りの鉢巻きを頭につけ保育士に抱っこされて参加する。法被を着た年長児の踊りを、目を細めてにこにこ見ていた1人のおばあちゃんがY男に気付き、「前会った時より大きくなっとうなあ。何歳になったんで。」と声を掛けてくれる。「もうすぐ1歳です。」と言う保育士の返事を聞きながら「どれ、抱っこさせて。」と膝の上にY男を乗せてくれる。Y男は保育士とおばあちゃんを交互に見つめていたが、保育士が「Y男君、抱っこ嬉しいなあ。」と言う声と、おばあちゃんの「かわいいなあ。」と言う優しい声を聞き、安心した表情になっていた。



踊りも終盤、おばあちゃんたちから「上手やったなあ、また見せてよ。」と声を掛けられ、1歳児M子は保育士と共におばあちゃんたちが座っている側に行き「おばあちゃん、タッチ～」と手と手を合わせている。「おばあちゃんたちに見てもらえてよかったね。」と保育士が言うと、「うん、M子またしたい。」とぴょんぴょん跳ねて喜んでいた。



この他にも七夕製作、夏祭りごっこ、ミニ運動会、焼き芋、合同避難訓練等様々な行事を通じて交流する中で、高齢者の方々は子どもたち一人一人の成長を楽しみにし、見守ってくださっている。

高齢者の方と一緒に阿波踊りを踊ることを通して **このまち**、地域の人に親しみをもったり、認められたりしながら **人**、「またしたい」と飛び跳ねるほど喜んだり、意欲をもって活動に参加したりしている **自分** 〈0歳児Ⅳ期「歌や音楽に興味をもち、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ」など〉。「鳴門市介護予防・多世代交流サロン」が高齢者との日常的な交流の場となっている。子どもが自分の身近な人と関わる嬉しい気持ちや親しみの気持ちに気付くように、保育者がさりげなく「抱っこ嬉しいなあ。」「おばあちゃんたちに見てもらえてよかったね」と言葉を添えている。

事例Ⅲ 矢倉保育園〔2歳児〕

「なんか色が変わってきた」【藍染め体験】（9月）

今年の夏も、運動会で着用するTシャツに全園児が模様付けを行い、藍染め体験を楽しんだ。2歳児クラスでは、藍液にTシャツを浸したS子が「うわー、なんか色がついた」と驚いたように声を上げ、A男はその隣りで藍液の中をじっと見つめていた。続いてロープに干すと、太陽の光を浴びて緑色から藍色に変化する様子に気付いたS男が、「なんか色が変わってきた」T男も「ほんまやなあ、さっきと色がちがうな」と伝え合う。近くでTシャツを広げて陽



にかざし、色を濃くさせていたM子は「なんか、変なおいがする」と小さな声でつぶやく。U保育士が「何のにおい？」と返すと、M子が「葉っぱのにおいかなあ？」T男も「うん、そうやなあ」とにこやかな雰囲気になり、会話も弾む。そして2度染めた後、大きな容器の中で水洗いすると、少しずつ模様が現れた。K子は「あれえ〜、なんでここ白いん？」と藍に染まっていない部分を発見し、不思議そうに見ている。するとT男が「あっ



藍染め体験を通して、子どもたちが緑色から藍色に変化する様子に気付いたり、独特の藍の匂いなどを感じたりしながら **このまち**、発見したことや気付いたことを友達に伝え合い **人**、自然の中で五感を総動員しながら藍染めの不思議さと楽しさを全身で味わっている **自分**〈2歳児Ⅲ期「散歩や戸外での遊びを通じて、自然や季節の変化に触れ、興味をもつ。」など〉。保育者は子どもの瑞々しい感性に触れ、「何のにおい？」と子どもに問いかけたり、子どもの発見や不思議さに共感したりしている。改定保育所保育指針等の「環境」の内容に「生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」が加わったが、この事例から子どもたちに藍染めの魅力を伝える保育を伝統的に続けている様子が見える。

事例Ⅳ うずしお保育園〔3歳児〕

「泥んこプール楽しいな」（5月）

「いっぱい水入れよ」と、砂場にバケツで水を運び入れる。水を入れると、茶色の泡が湧いてくるのに気付く。保育者が「この泡を、お椀にとろ!」と子どもの顔を見ながら言うと、「すげえクリームじゃ」「うわぁ私も触らせて」「コーヒークリームよ」と驚きや興味をもち始め、泥水に足を伸ばし座り込み遊ぶ。子どもたちの生き生きした様子を見守る。羨ましそうに遊んでいる様子を見ていたY男に「入ってみる?」と声をかけると、「ほれっ」と泥水の中で遊んでいた4歳児K男が、Y男の体にたくさんの泥水を投げかける。泥んこ遊びの経験が少ないY男の様子をしばらく見守る。Y男は、「うわぁ」と保育者の方を向き、ニヤツと笑う。声援を送るように、ニヤツと笑い返す。すると、「それっ!!」と突然泥水をかけ返す。笑いながら、かけ合いが始まる。保育者は、「頑張れ」と盛り上げる。全身泥水に浸かって遊んでいるH子が、日差しが当たる部分と、日陰の部分の水温の差があることに気付く。「やっほー」「うわぁ冷たあい」と発見したことにひとみを輝かせ、友達同士で遊びが進められていく。思いっきり楽しんだ後は、友達と協力して片付け、入浴して体を温める。お風呂の中では、笑顔が溢れる。

泥んこプールの遊びを思いきり楽しみ、心を解放しながら **自分**、泥の感覚の気持ちよさを味わったり、日なたや日陰の泥水の温度の違いまで感じたり **このまち**、友達とのかけ合いを楽しんだり、友達と協力して片付けをしたりしている **人** **〈3歳児I期「保育者や友達に親しみをもち、一緒に好きな遊びを見付ける。」「春の自然に触れながら、戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。」など〉**。保育者は子どもと一緒に泥んこ遊びを楽しみながら、子どもの様子や遊びの状況をよく観察し、一人一人の子どもに応じて、遊びに誘ったり、面白い遊びを提案したり、応援したり、見守ったり、多様な関わりをしている。



「絵の具で、いろいろな遊び」(7月)

絵の具の上を歩きながら「これヌルヌルするよ」と、保育者に急いで知らせに来るA子。「先生もしてみよう」と、一緒に足を滑らせてヌルヌル感を共感し合い、A子の驚きを受け止める。その言葉を聞き、他の子も足を這わせたり、手で触れたりして確かめ始める。手についた絵の具を体につけたり、筆で塗ったりするのに夢中になる。水を加えスライディングして見せると、子どもたちもやり始め、どこの場所がよく滑るのかを体で確かめ始める。子どもの発見を認める声掛けをしていると、どんどん仲間が増え始め、面白がったり、笑い声が上がったりと遊びが盛り上がる。遊んだ後、絵の具のついた体を洗っているうちに、ビニールプールの水が濁ってきたのを見て「コーヒーのお風呂になった」とS子が言い、コーヒー風呂で遊び始める。思わぬ発展が見られたので見守る。保育者の体の絵の具も洗い落としてくれ、コーヒー風呂に入るように促される。他の子も体を洗いながらビニールプールに入っていくので窮屈であるが、子ども自ら体を小さくし、詰め合いっこをして間を空け、「〇ちゃん入れるよ」「こっちに寄ってきたら入れるよ」「〇ちゃんがほんなんしたら入れんでえ」と声を掛け合い、あとから来た子が入れるようにしていた。

絵の具の上を歩いたり、滑ったり、足を這わせたり、手で触れたり、ダイナミックな絵の具遊びを通して **自分**、体全体で絵の具の感触を感じたり味わったり、どこの場所が滑るのかなどをよく確かめたり考えたりしている **このまち**。これらの遊びは友達にたちまち広がり、仲間が増えたり、思わぬ遊びへと発展したり、ますます遊びが面白くなっていく。ビニールプールでは友達のために譲り合っている様子もうかがえる **人** **〈3歳児Ⅳ期「夏ならではの素材(水・砂・泥等)に触れ、保育者や友達と関わりながら、夏の遊びを十分に楽しむ。」など〉**。保育者自らがモデルになったり、子どもの遊びに共鳴したり、見守ったり、子どもの発見を周りの子どもに広めたり、多様な関わりをしている。



事例Ⅴ 認定こども園すくすく〔3歳児〕

「かけっこがしたかったんだ」（2月）

男児4名が園庭の大型積み木（18cm×8cm×10cm）を3段ほど積み重ね、細長く並べてその上にまたがって座り、貨物列車ごっこをしている。

そこへ男児4名のうちの2名と普段からよく一緒に遊んでいるAがやってきて、いきなり列車を足で蹴り飛ばし壊しだした。「やめて」「せんとって」という言葉が飛び交う中、Aは長い列車を次々と場所を変えて蹴って壊していく。保育士はAがどうしてそんな行動をするのかがわからなかったが友だちに対する危険な行為がなかったため、すぐに声を掛けるのをやめて見守ることにした。そのうちAは「たいほする!」と、男児たちに取り囲まれてしまった。

困った顔のA。緊迫した雰囲気だったが一人が「もっかい作ろ。」と言ったことで、取り囲んでいた男児たちがまた新しい列車を作りだそうとAの側を離れた。その場に残されたAは無表情のまま立ちすくんでいた。そとAに近づいた保育士。

- | | |
|-----|----------------------|
| 保育士 | 「Aくんはどうしたかったん？」 |
| A | 「……………」 目を合わせようとしない。 |
| 保育士 | 「一緒に遊びたかったん？」 |
| A | 「ちがう。」 小さい声。 |
| 保育士 | 「一緒につくりたかったん？」 |
| A | 首を振る |
| 保育士 | 「どうしたかったんかなあ。」 |
| A | 「かけっこ。」 小さい声でつぶやく。 |
| 保育士 | 「そうかあ。かけっこがしたかったんだ。」 |
| A | 「……………」 睨みが上がり、目が合う。 |
| 保育士 | 「どうしたらよかったんかなあ。」 |
| A | 首を振る |
| 保育士 | 「一緒にあそぼって言ってみる？」 |

Aは保育士が言い終わらないうちに、さっとその辺りに落ちていた積み木を拾って男児たちが新しく作っているところへ動いて行った。ついさっきAを取り囲んでいた男児たちはAを自然と受け入れ一緒に遊び始める。

「これはここと違う。こっち。」「もっと大きくしよ。」と、言葉を交わす子。イメージをもって黙々と積み木をのせていく子。もっと長い積み木を持ってきて組み合わせる子。いつの間にか男児の人数は増え、貨物列車の車体の形は壊れる前よりも進化し大きくなっていく。

「ガー、ガー。」運転席に座り動き出した貨物列車がたくさんの荷物をのせて走って行った。

園庭の大型積み木を使って貨物列車ごっこで遊ぶことを楽しむために **自分**、友達に自分の思ったことや感じたことを言葉にしたり、折り合いをつけたりしながら **人**、イメージしたものを形にしたり工夫したりしている **このまち** 〈3歳児Ⅳ期「友達と同じイメージをもって、活動する楽しさを味わう。」など〉。保育者は安全に配慮し、子どもの気持ちに寄り添いながら援助しているが、言葉ではなく物を介して仲間入りしていることや、いざこざが何もなくあったかのように友達を受け入れ、自分たちで共に遊びを創り出そうとしている、子どもたちのすばらしさを見取っている。

事例Ⅵ 鳴門聖母幼稚園〔3歳児～〕

【Kくんの事例】

K君は3年保育で入園。入園まもない頃は登園しても部屋に入らず鞆をかけたまま、園庭を走り回る日が続いていた。体も一番大きく腕力も強くて入園当初から目立った存在だった。自分の思い通りにいかないと、すぐ手が出てしまい友達から、だんだんと怖がられる存在になっていた。外遊びでのトラブルは日常で「先生、K君がたたいた」「先生、K君が砂かけた」と何度も訴えてくる子が後を絶たなかった。その都度、私はK君に、してはいけない事や自分がされたらどう思うかなど1対1で話す。「ぼくは強いからいいもん」「あれ？何？ぼくわからん」など保育者が問いかけることに対して茶化したり、とぼけたり目を合わせようとしなかった。部屋の中でするおしごとには、全く興味を示さず外で大暴れすることを楽しむ毎日で一学期が過ぎていった。

K君は、水遊びが大好きで水道の蛇口をいっぱいひねって友達にかけたり廊下を水浸しにすることも多く何度も「K君やめて」と注意しても「ぼく、水大好きやけん、かんまん」と言いながら周りに迷惑をかけていた。力がありあまるK君に何か集中して全力でできるものはないかと思っていたので、水が大好きなK君に〈スポンジ絞り〉のおしごとを誘ってみた。「これしてみる？」と声をかけると「何？これ？」「水いれてくるん？」と言ってボウルに水を入れにいったが、一歩、歩きたびにピチャピチャとこぼした。「これはスポンジ。見ていてね」と言っている声も聞こえずK君はやりたくてやりたくて手がスポンジを握る。最初は思うように手と腕がコントロールできず指と指の間から水が飛んでしまったり水浸しにして喜んでいて、それから毎日登園後〈スポンジ絞り〉のおしごとをするようになった。繰り返し何度もする表情は真剣で集中する時間が増えていった。すると、少しずつ順番を守ったり動作をコントロールすることに意識が芽生えてきたように思った。そして、水だけでなく、石鹸をつかって布を洗う〈洗濯〉のおしごとにも始めた。

年中児になったK君は、自分より小さい子たちが見ている前で、自分で選んだおしごとを丁寧に楽しむ姿が見られ「ぼくにもできる」「楽しい。面白い」という自信につながり色々なおしごとに挑戦していた。最初は自分が満足するおしごとに面白さを感じていたが、最終的に「これしたい」と指さしたおしごとは〈お茶を入れる〉おしごと。ティーパックをあけてお湯を注ぎ、お湯の色がほどよい色にかわるまでにカップを用意する。体が大きいK君がティーパックを扱う姿は何かとても温かいものを感じた。K君がはじめて自分で入れた紅茶をおぼんにのせて持って行ったのはひとつ年下のN君。K君が「紅茶をいれました。どうぞ」と声を掛けると「ありがとう」と答えて二人で微笑みをかわした。いつも活発で元気なK君にあこがれを持っていたN君はとても嬉しそうでお互い仲良くなりたかったようだった。このおしごとをきっかけに二人は外でサッカーをすることが多くなってきた。

K君は自分が満足するだけでなく、誰かを楽しませたり喜ばせたりすることで心の成長が見られ、自分づくりにつながっていったように思う。そして家庭でも二人の弟にも優しく接し、母親との関係もとても良いものになってきたようだ。

この事例は入園からのK君の成長の過程を綴った記録である。保育者がK君に正面から向き合い、気持ちに寄り添いながら、一見乱暴に見える子どもの姿を肯定的に受け止めている。K君は保育者に誘われて始めた〈スポンジ絞り〉のしごとを真剣に取り組みながら **このまち**、少しずつ順番を守るようになったり、できるようになった自信が次のしごとに挑戦する意欲につながり **自分**、人の役に立つことに喜びを感じたり、年少の子どもや弟たちに思いやりをもって接したりするようになっている **人** 〈4歳児Ⅰ期「進級や入所（園）したことを喜び、いろいろな活動や遊びに積極的に取り組む」「新しい生活に慣れ安心して過ごす中で、自分の好きな遊びを見付けたり、保育者や友達と関わって遊んだりすることを楽しむ」など〉。



事例Ⅶ 板東幼稚園〔4・5歳児〕

本園では、板東の地域に伝えられてきた「お接待」という伝統や文化を受け継いでいくために、毎年、四国霊場一番札所『霊山寺』のお接待所でお接待をさせていただいており、今年で22年目を迎えた。だが、実施するにあたり今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、お遍路さんが少ないということや、園児が不特定多数の方々と触れ合うことは、安全なのかということなど、悩むことが多くあった。しかし、相手を思い優しい気持ちを育てる板東地区ならではのお接待の伝統文化を守っていききたいという強い思いから、職員間で話し合い、密を避ける・マスクを着用する・手指の消毒をするなどを徹底しながら、手渡しを止め、置いた物を取っていただく「置き接待」という形でお接待を実施することにした。

「喜んでくれるかな？」（9月下旬）

お接待に向けて、夏休みに各家庭にお願いをして、保護者の方と子どもたちが一緒に折り紙を折って、持ってきてもらうことにした。「気をつけてね」の気持ちを込めて折ったよ」と、嬉しそうに持ってくる幼児や「喜んでくれるかな？」と、期待感をもっている幼児などそれぞれに思いを込めて作ってきたことが伝わる折り紙作品だった。その他に、園庭で子どもたちが大切に育てた藍を自分たちで摘み、叩き染めをし、阿波の藍の叩き染めしおりをつくったり、一人ずつお遍路さんへの手紙を書いたり絵を描いたりし、最後に徳島特産のスダチを使った飴を入れて袋詰めし、気持ちの込めたお接待準備ができた。

準備を進めていくなかで、お遍路さんに親しみが少なかった年少児も「昨日の帰り、お遍路さんがいたよ」「朝、白い服を着て歩いている人がいたよ」と年少児なりに親しみを感じ始め、教師や友達に伝える姿が見られるようになった。



年長児は、昨年度の経験から、お遍路さんのことを思いながら **このまち**、家族と一緒に折り紙を折ったり、友達とお接待の話をしながら藍の叩き染めをしたり **人**、一人一人が自分なりに言葉を考えて心を込めて手紙を書いたりする姿が見られている **自分** 〈5歳児Ⅲ期（家庭と地域との連携）「様々な行事を通し、子どもの頑張っている姿を家庭でも十分に認めてもらい、子どもが自信をもって活動していけるようにする。」など〉。

年少児は初めてのお接待ということやお遍路さんへの認知に個人差があったことから、準備を始めた頃は、活動とお接待とが結びついていなかった。しかし、お接待に向けての活動をしていくなかで、年長児のお遍路さんへ思いを寄せる姿や通園路を歩いているお遍路さんの姿を実際に見ることで **人**、お接待という文化を身近に感じるようになる **このまち**。「喜んでくれるかな？」という素直な言葉から、相手を思いやる温かく優しい気持ちが育まれている **自分** 〈4歳児Ⅲ期（家庭と地域との連携）「地域の行事や芋掘りなどを通して、地域の人と交流し親しみをもつ。」など〉。

「お遍路さん、いるかな？」（10月下旬）

10月19日と27日の2日間、年長児・年少児が分散して四国霊場一番札所『靈山寺』のお接待所でお接待をした。行くまでは、「お遍路さん、いるかな？」「誰もいなかったら悲しいな」と話していたが、接待所に着くと同時くらいに観光バスが着き、何人かのお遍路さんがやってきた。

「お接待です。気をつけてお参りください」と少し離れた所からお遍路さんに呼び掛けると「ありがとう、いただきます」「どれも可愛くできているね」と準備していた袋を次々と手に取って、笑顔で優しく声を掛けてくれるが、お参りに向かわれた。

園に帰り、子どもたちに感想を聞くと「ちょっぴりドキドキしたけど、もらってくれて嬉しかった」「喜んでくれてよかった」などお遍路さんの掛けてくれた笑顔や言葉、お接待をして喜んでくれた姿を見て、感じたことを自分の言葉で表現していた。



昨年に比べて園の前の道を歩いているお遍路さんが少ないことに、もしかしたらお遍路さんがいないかもしれないという不安から「お遍路さん、いるかな？」という言葉が年長児から聞かれたが、靈山寺に着くとタイミングよく到着した観光バスから降りてくるお遍路さんの姿を見て **このまち**、「よかった」という言葉と嬉しそうな表情を浮かべる子どもたちの姿からは、待ちに待ったお接待ができるお遍路さんに会えたという喜びとともに、いなかったらどうしよう、もらってくれなかったらどうしようという不安も抱いている **自分**。また、お遍路さんから掛けられた「ありがとう、いただきます」「どれも可愛くできているね」「気をつけるよ。みんなも元気に遊んでね」というお礼の言葉や優しい眼差しに満足感を味わっている **人**。

「嬉しい！」（11月中旬）

お遍路さんから、幼稚園にお礼の手紙が送られてきた。その手紙には、「幼稚園のみなさんがしてくれたお接待のおかげで、無事に八十八か所をお参りすることができました。ありがとう。みなさんも友達と仲良く元気に遊んでくださいね」という感謝の言葉と幼児が折って入っていた折り紙をスキャンしたものが大きく添付されていた。学級で葉書を読んで紹介すると「嬉しい！」「よかった」と子どもたちから笑顔と喜びの言葉が溢れていた。その後も、子どもたちに心のこもったお礼の手紙や品物が届いており、その都度お遍路さんが無事にお参りを終えられたことを喜び合っている。



思いがけないお遍路さんからのお礼の手紙に、子どもたちは驚きと喜びを感じている **このまち**。お接待をし、自分がしたことによって相手が喜び、また自分も嬉しい気持ちになったり **自分**、お遍路さんと思いが通い合ったり、自分だけでなく相手を思いやる優しい気持ちや人とのつながりを大切にする心が育まれている **人**。保育者は受け継がれてきたお接待の文化を知り体験することで、自分たちが住んでいる地域を好きになり郷土を愛する子に育ってほしいと願っている。

事例Ⅷ 大津西幼稚園〔5歳児〕

「砂場遊び」（6月）

6月1週、戸外で色水や、ごちそう作りをして遊んでいた。教師も一緒になり、砂場で団子作りをしていると「僕もしたい。どうやって作るの？」と一人の幼児が興味をもち近寄って来た。教師が「手で丸めて作ったよ。」と言い、泥で汚れた手を見せると嫌そうな顔をして「難しそうだからやめておく。」とその場を離れてしまった。その後も、幼児たちが砂場で遊んでいる様子を見たり、一緒に団子作りをしたりしていても、丸める硬さが分からずに「もうやめる。」とすぐ諦めてしまう姿が多く見られた。



6月2週、年長児だけで、砂場で遊ぶ時間をつくった。その時は、道具は出さずバケツの中に水を入れて置くだけにした。それを見た幼児たちが、「え～道具出さないの?」「何にも作れんよ。」と口々に話す姿が見られた。また、手で砂を触ることが苦手なA児は、「手が汚れるから嫌。」と砂場から離れようとしたので、教師が以前、作っておいたカチカチの泥団子を見せ、「これは、幼稚園の砂場の砂だけで作ったんよ。」と言って団子を渡してみた。「結構、重いな。石みたい。」と何度も持ち上げ、重さを確かめたり、手で触ってみたりする姿があった。教師は、砂場の砂を手で触り「この砂はさらさらやね。」「こっちはどうかな。」と他の幼児達に言葉を投げかけてみると「こっちは、何だか冷たい。」「何か色が違うよ。」と様々な場所の砂を手で触り感触を味わっていた。その様子を見ていたA児は、まだ少し触ることに迷いがあるものの、指先で砂を触っていたので教師は、思い切って砂でザラザラになった手でA児の手をギュッと握り「一緒に団子作りしてみる?」と声を掛けた。A児が「先生の手、ザラザラやな。」と笑いながら言ったことがきっかけになりA児は、砂場の砂を何度も手で触ったり、砂の中に手を入れたりして、感触を味わう姿が見られるようになった。



6月3週、砂場で遊ぶことが多くなり、道具を使わずに手で砂を触る幼児が増え「これはさらさらやな。」「水をたくさん入れると、どろどろになったよ。」と砂や泥の特性に気付く言葉が多く聞かれるようになってきた。また、泥団子作りに挑戦しようとする姿も見られるようになり、水を入れる量を調節しながら自分が作りやすい硬さの泥を作り、団子作りをして遊ぶようになった。



6月4週、砂場の砂だけではなく、昨年度、稲作りで使用して固まった土粘土を利用し、幼児たちと一緒に小槌で砕いてふるいにかけて、さらさらにした土を取り入れたことで、より意欲的に団子作りやクッキー作りをして遊ぶようになった。



6月4週



昨年度、稲作りで使用して固まった土粘土

この事例は5歳児6月1週から4週までの一連の砂遊びの記録である。保育者や友達と一緒に砂場の砂で団子作りをしながら、「これはさらさらやな。」「水をたくさん入れると、どろどろになったよ。」と砂や泥の特性に気付いたことを伝え合いながら **人**、水の量を調節したり、固まった土粘土を小槌で砕いてふるいにかけて工夫しながら **このまち**、意欲的に遊びに取り組んだり、何度も挑戦したりする姿がみられる **自分** 〈5歳児Ⅱ期「自然や身近な環境に関わり、自分なりの目的をもって、試したり工夫したりする。」など〉。このような充実した遊びに発展した背景には、職員同士のカンファレンスで「砂遊びの経験が少なく苦手な幼児が多いのかもしれない」「学級活動として砂場での遊びを取り入れ、一人一人の遊びへの取り組み方を把握してはどうか」「道具を出すのをやめて手で砂や泥を触ることをしてみたらどうか」などと話し合い、一人一人の子どもの実態に沿った遊びの提案や環境の計画があったようである。また、子どもが興味や関心をもって意欲的に遊べるように、保育者が作ったカチカチの泥団子を見せたり、保育者自らが泥まみれで遊ぶ姿を見せたりしている。

事例Ⅸ 幼保連携型認定こども園 IZUMI〔5歳児〕

「木も生きてるんやな」(11月)

地域に隣接している鳴門教育大学へ徒歩遠足に行った。大学内は自然がいっぱいの環境である。そこで、自然をテーマにしたフィールドビンゴというゲームをした。項目は、「ふわふわ」「ちくちく」「あたたかい」「いいにおい」「たべあと」「くものす」「あかいもの」などである。子どもたちが見たり、触ったり、感じたりしながら身近な自然を楽しんで欲しいと願った。Kくんが「よし！探検に行こう」と言い出す。その言葉に子どもたちは自然あふれる森林の中へ向かった。



項目が書かれたカードを手に持ち「あっ！赤い葉っぱ見つけたよ！」「クモのす、見つけた！」「おっきいクモがおるよ！」「うわっ！この葉っぱちくちくする～」と、あちらこちらから子どもたちの歓声が聞こえてきた。その中で、Hくんが真剣な表情で何かを探しているようで、「Hくん、何探してるの？」と聞くと、「たべあと」と答える。Hくんは生き物が大好きで、普段からよく図鑑を見たり絵を描いたりしている。私もHくんに寄り添っ



てみた。「クワガタやカブトムシは木の蜜を吸うけど、葉っぱも食べているかも」とHくん。たくさんの落ち葉を手で分けながら探していた。そして、茶色がかった葉っぱの隅に丸い穴を見つけ、「ん？？これ食べたかも」と興味津々。そこへKくんが「Hくん、何見つけたん？」と駆け寄った。「カブトが食べたかも！」「ほんまじゃ！」私も「すごいね！大発見！」と三人で大はしゃぎ！その後、Hくんがそばにある木の幹に穴を見つけ「見て！ここにも穴！」「すご

い！」「何かのお家かも」「何かおるのかなあ？」とHくんとKくんは顔を近づけ、そうっとのぞくように見た。「これも大発見やなあ！」「うん！」と嬉しそうな二人。そして「なあなあKくん、この木触ってみ。あたたかいよ」とHくん。Kくんは両手で触り「ほんま！なんかあたたかい！」。私も触ってみると本当にあたたかく、今度は三人で優しい気持ちになった。Hくんが「木も生きてるんやな」とつぶやいた。Kくんも納得したように、少しの間だまって木に触れていた。Hくんのその感性豊かな一言に私は感銘を受けた。

木の穴にいるのは何か分からなかったが、Hくんは、食べあとがあった茶色い葉っぱを宝物のようにビニール袋に入れて持ち帰った。きっと、心の中にも宝物がたくさんできたのだろうと思う。



鳴門市学園都市化構想の一環で鳴門教育大学へ遠足で訪れ、自然の動植物を五感で感じたり、想像したり **このまち**、保育者や友達に思ったことや考えたことを言葉で伝えたり表現したりしながら **人**、身近な自然に深く関わり、親しみをもっている **自分** **〈5歳児Ⅲ期「身近な自然の美しさや不思議さに気づき、自然の移り変わりを感じ取る」など〉**。このように子どもの生き生きした姿がみられたのは、豊かな自然環境と保育者の仕掛けがあったからだと思われる。保育者には「子どもたちが見たり、触ったり、感じたりしながら身近な自然を楽しんでほしい」という願いがあり、事前に現地を訪問したり、用意周到な教材研究をしたりしたに違いない。「木も生きてるんやな」と保育者の意図をも超える子どもの感性のすばらしさを驚く心で受け止めている。



事例Ⅹ みどり保育所〔5歳児〕

「40 かいもかけた！」（2月）

きく組（3～5歳児）が識字生との交流に参加する。地域の夏祭りや人権文化祭、センターへの避難訓練などで何度も足を運んでいるため顔見知りの人もいる。最初に挨拶や歌、リズムの披露などをすると「上手やなあ。〇〇さんとこの子やな～大きいなったなあ」等と識字生も顔をほころばせる。

K男（5歳児）は決めていたかのようにIさんが座っているところへ行き自分も座る。

「おはよう」と小さな声でK男。「おはよう。よう来たな。」にK男もうなずく。K男は識字生との交流は3回目になるが3回ともIさんとペアになっている。

K男：「オレな、すうじだったらかけるんよ…」と小さな声で独り言のように言う。

Iさん：「ほうか、ほうか」とうなずき、目を細めて見ている。

K男：「1、2、3・・・」と言いながら書いていく。

Iさん：「上手やなあ。上手に書けとる」

K男：「1、2、3・・・」

Iさん：「1、2、3・・・3が難しいけど上手でないか」

K男：「1、2、3・・・3がむずかしいんよなあ」

Iさん：「むずかしいなあ」

Iさんもノートに1、2、3と書く。それに気付いたK男。

K男：「いっしょやなあ」と笑う。

Iさんもうなずきながら一つひとつ丁寧に書いている。



その後もK男は何度も繰り返し、1、2、3と書く。

Iさん：「うわあ、すごいなあ。40回も書けたぞ！」

みるみる明るい表情になり、担任保育士に

K男：「Eせんせい！K男、40かいもかけた！みて！みて！」

自信に満ちあふれた大きな声で言う。

E保育士：「K男くん、すごい！頑張ったなあ。いっぱい書いたんじゃ。」

K男：「すうじだったらかけるんよなあ... なまえもかいてみよかなあ...かけるかなあ」

と頭をポリポリとかきながら言う。

Iさん：（うんうんとうなずく）



ありのままの姿を受け入れてもらい、たくさんほめてもらったK男は満足そうに笑っていた。自分の名前を書きたいと次への意欲も見られるようになり、ひらがなに興味関心をもつきっかけにもなった。

地域の識字学級に参加し、歌やリズムを発表したり、文字を書いたりしながら **このまち**、地域の人に親しみをもったり、認められたりしながら **人**、文字に関心をもち、自分でできるようになったことを喜び、それがさらなる書くことへの意欲になっている **自分** **〈5歳児Ⅳ期（家庭と地域との連携）「お世話になった地域の人に感謝の気持ちを表す機会を作り、地域や周りの人とのつながりを深める」など〉**。保育者は「すごい！頑張ったなあ」と子どもの頑張ってるプロセスを認め、子どもとIさんのやりとりを見守っている。Iさんも「上手やなあ」と子どもをほめるだけでなく、子どもが「むずかしいんよなあ」と言うと「むずかしいなあ」と共感的な関わりをしている。かつて大家族では祖父母や親戚など親以外のいろいろな大人に見守られながら育っていたが、地域の人との交流は、現代の子どもたちにとって多様な大人と関わる貴重な体験の場になっていると思われる。



鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム研究会委員一覧

(職名令和3年3月現在)

【委員】

学識経験者	鳴門教育大学大学院教授（幼児教育学）	◎湯地 宏樹
〃	鳴門教育大学大学院准教授（保育内容・教育方法学）	○塩路 晶子
幼稚園関係者	鳴門市第一幼稚園 園長	藤川しのぶ
〃	鳴門聖母幼稚園 園長	乾 盛夫
保育所関係者	鳴門市保育協議会 会長（うずしお保育園園長）	三石昇太郎
〃	鳴門市保育協議会 副会長（矢倉保育園園長）	塚原 恭子
〃	鳴門市保育協議会 副会長（林崎保育所所長）	岡部 美和
認定こども園関係者	認定こども園すくすく 園長	葉田 貴明
〃	幼保連携型認定こども園 IZUMI 園長	波里 史子
小学校関係者	鳴門市板東小学校 教頭	若井ゆかり
市関係者	学校教育課 幼稚園教育担当（幼稚園教諭）	富田 愛
〃	子どもいきいき課 保育指導担当（保育士）	阿部 映子

【事務局】

市長部局	子どもいきいき課 課長	黒濱 政章
	幼保連携推進室 室長	川上久美子
	子どもいきいき課 副課長	下地美由紀
	子どもいきいき課 係長（幼保連携推進室係長）	岩本 隼人
	幼保連携推進室 主事	長谷川恵子
教育委員会	学校教育課 課長	並木 章人
	学校教育課 指導主事	古林 賢一

◎座長 ○副座長

鳴門市就学前教育・保育モデルカリキュラム

自分が大好き 人もこのまちも大好き なるとの子

発行 鳴門市・鳴門市教育委員会

<https://www.city.naruto.tokushima.jp/>

編集 鳴門市 健康福祉部 福祉事務所 幼保連携推進室

〒772-8501 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜170

電話 088-684-1563 FAX 088-684-1337

発行日 2021年3月31日



この冊子は、国立大学法人鳴門教育大学のご協力をいただき、作成しています。





「本冊子はユニバーサルデザインに配慮して作成しています」